

少子化対策検討プロジェクト 報告書



高野山桃山公園から手賀沼を望む



手賀沼のうなきちさん

平成 27 年 2 月

我孫子市少子化対策検討プロジェクト

目次

はじめに 1

第1章 少子化対策の提案に向けて～課題とテーマ～ 3

- 1 - 1 「定住化策検討プロジェクト報告書」から 3
- 1 - 2 我孫子市の少子化にかかわる現況から 4
- 1 - 3 プロジェクト全体会議の中から 6
- 1 - 4 少子化対策の施策の「柱立て」と具体的な事業 7

第2章 少子化対策の提案～3つの柱から～ 9

- 2 - 1 第1の柱「結婚したい人が、あびこで「前向きに」
結婚できるための仕組みづくり」への提案 9
～あび恋プロジェクトと少子化対策室～
 - 2 - 1 - 1 恋活支援事業（若者の出会いの機会の提供） 12
 - 2 - 1 - 2 婚活支援事業（結婚相談所の拡充） 14
 - 2 - 1 - 3 経済的支援事業（経済的不安の解消） 18
 - 2 - 1 - 3 - 1 求人情報サイトの開設と
就職フォーラムの開催 19
 - 2 - 1 - 3 - 2 賃貸住宅初期費用等の軽減 21
 - 2 - 1 - 3 - 3 結婚に関する費用の情報提供 22
 - 2 - 1 - 4 情報発信(プロジェクトの浸透・アピール) 23
- 2 - 2 第2の柱「子どもを産みたい人が、あびこで「安心して」
産める仕組みづくり」への提案 28
 - 2 - 2 - 1 妊活カフェの設置 31
 - 2 - 2 - 2 産後ケアへの助成について
～ストレスフリーで、楽しく、ワクワク妊活～
..... 35
 - 2 - 2 - 3 幼保小中高大を通した少子化対策 40

2 - 3	第3の柱「子育てしている人が、あびこで豊かな暮らしとともに子育てを「楽しめる」仕組みづくり」への提案	42
2 - 3 - 1	地域とつながり、子育て支援策を伝える 子育てフェアの開催	43
2 - 3 - 1 - 1	(仮称)てとておHappy子育てフェア ～親子で、地域で、手と手を(てとてを)結んで、 楽しく子育て～	43
2 - 3 - 1 - 2	市役所職員のアイデア大募集 子ども向けイベント (仮称)「うちの課でなんかできない？」	46
2 - 3 - 2	市内外の子育て世帯へのアピール	47
2 - 3 - 2 - 1	幼保第三子無料事業 キャッチフレーズは「第三子0円！」	49
2 - 3 - 2 - 2	子育て応援宅配便事業	50
第3章 少子化対策の提案実現に向けて～切れ目のない支援を～		53
第4章 資料		55
4 - 1	会議開催経過	55
4 - 2	設置要綱	58
4 - 3	プロジェクトチーム名簿	59

はじめに



はじめに

我孫子市では、重点施策として「若い世代に魅力ある、子育てしやすいまちづくり」を掲げており、施策実現のため、全国的な課題でもある「少子化」に対し、市として早急に対策を検討する必要にせまられています。

東日本大震災のあった平成23年以降、市の人口は減少傾向に転じ、年齢別でみると0歳～17歳の子ども人口の減少率が他世代より高く、いわゆる児童人口(0歳～6歳)も減少し、長期的にこの傾向が続く推計になっています。

さらに、市の合計特殊出生率が、平成13年には1.11を記録し、平成25年も国・県の値を下回って1.27と長期にわたって低迷しており、出生数についても、846人(平成26年)と平成24年から1,000人を下まわる状況となっています。東葛地区でも市の現状が楽観視できるものではなく、地域差も含んだ重要な課題となっています。

そこで、25年度の定住化策検討プロジェクトに引き続き、26年度は子ども支援課・企画課の共同事務局による「少子化対策検討プロジェクト」を設置し、「若い世代が結婚し、市内で子どもを産み育ててもらい、定住してもらえるような魅力あるまちづくりを目指すための取り組みについて総合的に検討する」ことをプロジェクトの目的としました。(次ページ参照)

プロジェクトチームでは、新規採用職員を含めた若手職員を中心として、関係7課(秘書広報課、企画課、市民活動支援課、健康づくり支援課、子ども支援課、保育課、生涯学習課)に、社会福祉協議会と庁内公募6名を加え、14名の体制で施策の検討を進めました。

会議では、3つのワーキンググループに分かれ、グループごとに自由な発想で検討を進め、全体会議を5回開催し、最終的には3つの柱を中心に事業提案をしました。

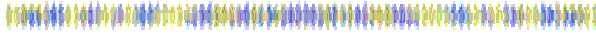
第1の柱は「結婚したい人が、あびこで「前向きに」結婚できるための仕組みづくり」、第2の柱は「子どもを産みたい人が、あびこで「安心して」産める仕組みづくり」、そして第3の柱は「子育てしている人が、あびこで豊かな暮らしとともに子育てを「楽しめる」仕組みづくり」です。

今後は、市が提供している現況のサービスの中で、どの世代にどんな支援を補うべきかを議論し、「それぞれの世代が、あびこで結婚・妊娠・出産・子育てを具体的にイメージし、シミュレーションできる仕組みづくり(あびこ style の創造)」につなげていく必要があります。

さらに、我孫子の子どもたちに向けた教育の中で、家族の大切さや幼い子を思いやる心を養うことで、将来、子どもたちが我孫子に住み続け、結婚し、子どもを産み育てたいと思えるような、次世代につなげる施策を実施する体制づくりも必要と考えます。

提案は早期に実現できるものから事業化し、中長期的な視点が必要な提案についても、今後事業化に向けて検討し、より魅力あるまちであり続けるための一助にさせていただきたいと考えます。

はじめに



我孫子市少子化対策検討プロジェクトの目標

平成 25 年度
定 住 化 策 検 討
プ ロ ジ ェ ク ト

平成 26 年度少子化対策検討プロジェクト

我孫子市で
出会い、結婚
(出会・結婚)

我孫子市で
子どもを産み育てる
(妊娠・出産・子育て)

我孫子市に
住み続ける
(定住化)

プロジェクトの提案

事業化

平成 27 年度～

我孫子市が
より魅力あるまちで
あり続けるために

第1章 少子化対策の提案に向けて ～課題とテーマ～

1-1 「定住化策検討プロジェクト報告書」から

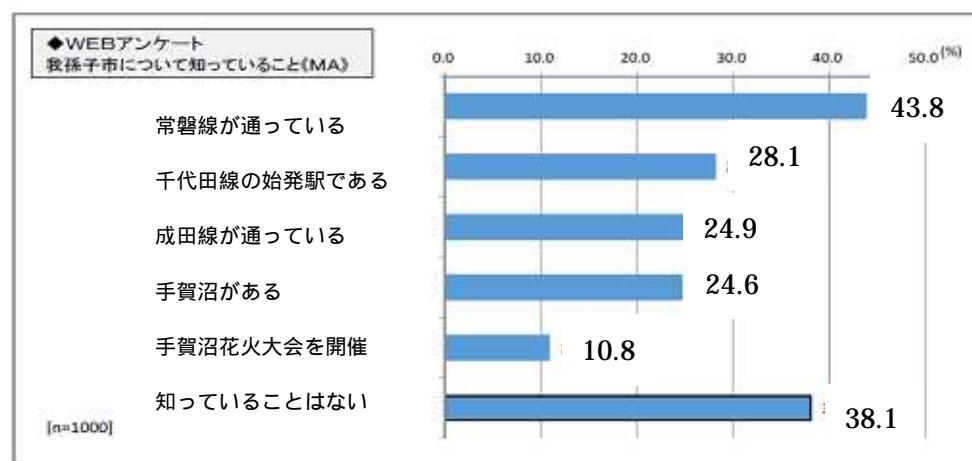
(1) 「子育て環境のさらなる充実」としての少子化対策

平成25年度に設置した定住化策検討プロジェクトチームの提案をまとめた「定住化対策検討プロジェクト報告書」(平成26年2月)では、テーマ「子育て環境のさらなる充実」のなかで、「今後の課題」として「総合的な少子化対策の検討」が挙げられています。

市の子育て環境の「弱み」として、「我孫子市の人口減少対策としては、市内への転入や定住化を促進して社会減を改善するだけでなく、出生数を増やし、すでに始まっている自然減を改善していくことが不可欠であるが、婚活や結婚、妊娠、出産への支援を含めた総合的な少子化対策が十分とは言えない。」と指摘しており、総合的な子育て支援策の中で、出会いから結婚、妊娠、出産のそれぞれのステージでの対策が求められています。

(2) アンケート結果

「首都圏住民に対するWEBアンケート調査」の中で、「我孫子市について知っていること」を尋ねたところ「知っていることはない」との回答が38.1%で、さらに、「我孫子市が居住候補地にならない」と回答した方の理由として我孫子市の「イメージがわからないから」が39%と最も高い結果でした。



これらのことから、「我孫子市は、婚活、結婚、妊娠、出産、子育てについてのいろいろと優れている施策している」ということを、市のイメージとして継続的に発信していくことが、定住化につながる少子化対策として必要なことであると考えます。また、市が発信する様々な少子化の施策(情報)をどのように活用できるのか、市民一人ひとりがライフステージに合わせてイメージできる仕組みづくりが重要と考えます。

第1章 少子化対策の提案に向けて

1 - 2 我孫子市の少子化にかかわる現況から

(1) 婚姻

市の婚姻数は、平成11年度の790件をピークに、多少の増減をしながら減少傾向(平成25年度564件)で推移しています。

婚姻・離婚件数の推移

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
婚姻件数	725	697	727	657	681	716	608	558	604	564
離婚件数	227	245	226	230	250	253	212	220	221	190
市人口	131,370	131,592	131,838	133,541	134,552	134,982	134,986	134,911	133,749	132,633

県衛生統計年報より

婚姻率も同様に平成11年度の6.2%をピークに平成22年度からは4%台に低下し、年齢別の婚姻率では、30歳から34歳までが約43%、そのうち男性については2人に1人は未婚(平成22年度49.56%)であり、晩婚化が進んでいます。

婚姻率の推移(%)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
我孫子市婚姻率	5.5	5.3	5.5	4.9	5.1	5.3	4.6	4.2	4.6	4.3
千葉県	6.2	5.9	6.1	5.9	6	5.9	5.7	5.2	5.3	5.1
全国	5.7	5.7	5.8	5.7	5.8	5.6	5.5	5.2	5.3	5.3

県衛生統計年報より

未婚者数・率(20歳から49歳)

我孫子市		20歳～49歳 総数	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳
全 体	総数	48886	5571	6685	8243	10791	9607	7989
	未婚者数	20233	5183	4707	3571	3259	2166	1347
	割合(%)	41.39	93.04	70.41	43.32	30.20	22.55	16.86
男	総数	24,676	2885	3333	4161	5407	4868	4022
	未婚者数	11,482	2736	2509	2062	2004	1302	869
	割合(%)	46.53	94.84	75.28	49.56	37.06	26.75	21.61
女	総数	24,210	2686	3352	4082	5384	4739	3967
	未婚者数	8,751	2447	2198	1509	1255	864	478
	割合(%)	36.15	91.10	65.57	36.97	23.31	18.23	12.05

平成22年国勢調査結果から作成

これらの婚姻件数や未婚率から、少子化対策として、結婚活動、いわゆる「婚活」が重要なポイントの一つとして考えられます。

そして「婚活」には、自らの夢の実現や能力を発揮のために積極的にパートナー(企業等)を探す「就活」と同様に、時代にあった「前向き」できめ細かいフォローが求められていると考えます。

第1章 少子化対策の提案に向けて

(2) 出産(妊娠)

市で生まれた子どもの数は、平成24年から1,000人を下まわり、今後も厳しい状況が続くことが予想されます。

出産数

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
出生数(人)	1,123	1,053	1,011	952	932	846

市住民記録 住民基本台帳に基づく移動調査表より

さらに1人の女性が生涯に産む子どもの数の推計値を示す合計特殊出生率は、我孫子市では平成25年に1.27となり、前年度と比較し若干の改善がみられましたが、国や県よりも低い水準で推移しています。

合計特殊出生率の推移

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
我孫子市	1.23	1.29	1.27	1.25	1.27
千葉県	1.31	1.34	1.31	1.31	1.33
国	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43

県保健衛生統計年報より

また、市内の母親の年齢別出生率は、平成20年から5年間で、30歳から34歳までで約6%低下する一方で、35歳から39歳までが約4%、40歳から44歳までが約3%上昇し、出産年齢が高くなる晩産化が進んでいます。

この現況から、出生数の増加や第2子、第3子の出産へ繋げるためには、出産年齢を引き下げることが必要であり、そのためには、婚活とともに、妊娠や出産に対する女性の不安や悩みを取り除くための情報提供や支援策によって、「安心して」出産できる環境も整えていくことが必要と考えます。

母の年齢別 出産数・割合

我孫子市	総数	14歳	15～	20～	25～	30～	35～	40～	45～	50歳
		以下	19歳	24歳	29歳	34歳	39歳	44歳	49歳	以上
平成20年度	1,071	0	6	83	260	450	249	23	0	0
割合(%)		0	0.56	7.75	24.28	42.02	23.25	2.15	0.00	0.00
平成21年度	1,122	0	9	85	261	455	271	41	0	0
割合(%)		0	0.80	7.58	23.26	40.55	24.15	3.65	0.00	0.00
平成22年度	1,042	0	10	86	248	389	274	34	1	0
割合(%)		0	0.96	8.25	23.80	37.33	26.30	3.26	0.10	0.00
平成23年度	1,008	0	5	70	238	399	256	39	1	0
割合(%)		0	0.50	6.94	23.61	39.58	25.40	3.87	0.10	0.00
平成24年度	942	0	14	59	222	337	255	51	4	0
割合(%)		0.00	1.49	6.26	23.57	35.77	27.07	5.41	0.42	0.00

県衛生統計年報より

(3) 子育て

市では、子育て支援策を重要な施策として、位置付けており、妊娠から子どもの発達に応じたサービスを充実させています。

中でも保育園の「待機児童ゼロ」は、昭和61年度から26年間堅持している取り組みであり、さらに、国や県に先駆けて、中学生までの子ども医療費の無料化やあびっ子クラブの開設など、市独自の先進的施策を実施しています。

第1章 少子化対策の提案に向けて

今後は、さらに少子化対策として、個人への経済的支援や子育て環境の充実に取り組み、子育てを「楽しめる」ものにするによって、第2子、第3子の出産に繋げていく仕組みづくりも求められています。

そのため、すべての世代に少子化対策を講じていくためにも、それぞれの世代が、結婚・妊娠・出産・子育てを具体的にイメージし、シミュレーションできるような施策を展開していく必要があると考えます。

1 - 3 プロジェクトの全体会議の中から

第1回、第2回の全体会議で、少子化の課題に対する意見と対応する施策(事業)を検討しました。

最初に少子化対策を検討していくにあたり、妊娠や出産は、個人的な考えや価値観に基づくものであり、自由な選択が最優先されるものであることを確認しました。さらに少子化の即効性のある方策は全国的に見当たらないため、当初の会議では、年齢や性別にかかわらず広い視野で発想することとしました。

第1、2回全体会議 各メンバーからの意見・提案



施策の柱立てへ

少子化の現況と課題を意識しながら、ワーキンググループ(WG、班)では、共通のキーワードや事業内容に基づき、自由な発想による発案と意見を出し、施策の柱立てを検討しました。

(各ワーキンググループの発案概要は別紙参照)



1 - 4 少子化対策の施策の「柱立て」と具体的な事業

それぞれの発案と意見を以下の3つの柱に分けて、各WG(班(第4章p59))ごとに具体的な提案を検討しました。

《 第1の柱 》

結婚したい人が、あびこで「前向きに」結婚できるための仕組みづくり(第1WG)

～あび恋プロジェクト～

少子化対策室の設置

恋活支援事業(若者の出会いの機会の提供)

- ・出会いイベントの開催
- ・ITの活用(登録制メール配信)
- ・あび恋神社の設置

婚活支援事業(結婚相談所の拡充)

- ・結婚相談所の拡充
- ・婚活支援イベントの拡充
- ・ITの活用

経済的支援事業(経済的不安の解消)

- ・求人情報サイトの開設と就職フォーラムの開催
- ・賃貸住宅初期費用等の軽減
- ・結婚に関する費用の情報提供

情報発信(プロジェクトの浸透・アピール)

《 第2の柱 》

子どもを産みたい人が、あびこで「安心して」産める仕組みづくり(第2WG)

妊活カフェの設置 ～ストレスフリーで、楽しく、ワクワク妊活～

産後ケアへの助成

小中高大を通した少子化対策

《 第3の柱 》

子育てしている人が、あびこで豊かな暮らしとともに子育てを「楽しめる」仕組みづくり(第3WG)

地域とつながり、子育て支援策を伝える子育てフェア開催

- ・てとておHappy子育てフェア
- ・市役所職員のアイデア大募集 子ども向けイベント(仮称)「うちの課でなんかできない？」

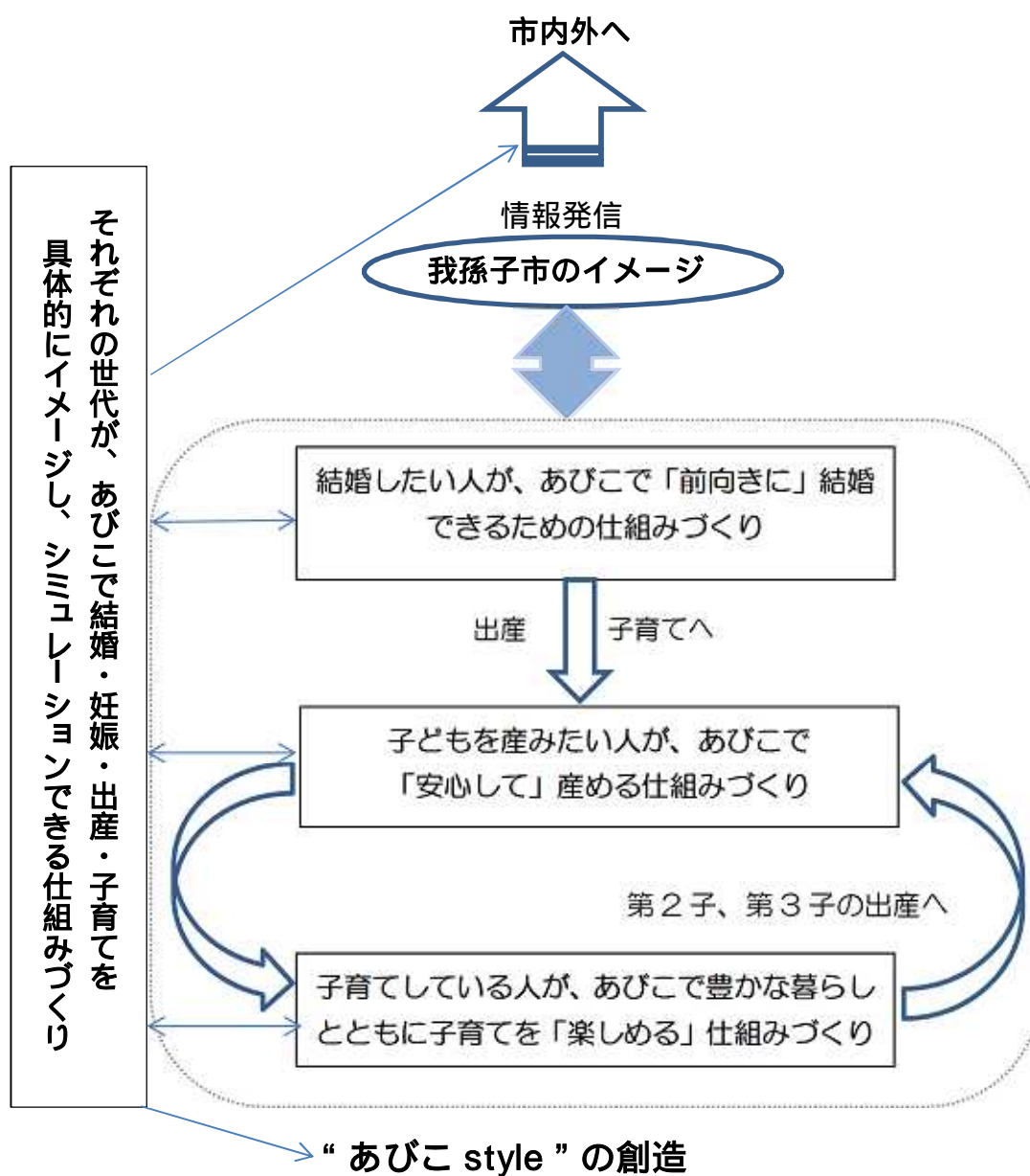
市内外の子育て世帯へのアピール

- ・幼保第三子無料事業 キャッチフレーズは「第三子0円！」
- ・子育て応援宅配便

さらに、少子化を世代や性別を特定して問題視することがないように、「それぞれの世代が、あびこで結婚・妊娠・出産を具体的にイメージし、シミュレーションできる仕組みづくり」を3つの柱すべてに共通する考え方として検討しました。

加えて、その人らしいライフプランをイメージし選択するためにも、情報発信の強化が重要と捉え、これらの柱による少子化対策が、我孫子市の良好なイメージづくりとなるよう市内外への情報発信の推進を提案しました。

少子化対策の施策の「柱立て」





2-1 第1の柱『結婚したい人が、あびこで「前向きに」結婚できるための仕組みづくり』への提案 ～あび恋プロジェクト～

(1) 施策の背景

「晩婚化」と「未婚化」は、少子化問題の大きな要因と考えられます。

未婚者対象アンケート結果によると、20・30代未婚者の大半が結婚したいと考えています。

また、結婚したいという気持ちはあるものの、経済的な不安により結婚を意識できず、結婚に踏み切れない人もいます。特に男性は収入の面で不安を感じており、さらに男女側ともに出会いの機会の不足や恋愛離れの不安等が結婚を遠ざけている面があります。

一方で、婚活経験のある既婚者対象アンケート結果によると、「婚活」は一定の成果を生んでいることがわかります。

そこで、結婚に「前向き」であるにも関わらず「結婚できない」「恋愛できない」現状を打開するための事業提案が必要だと考えました。

未婚者対象 アンケート結果	男性		女性	
	20代後半	30代前半	20代後半	30代前半
できるだけ早く結婚したい いずれ結婚したい 結婚したいと思う(思っていた) が、結婚しないと思う	71.0%	71.0%	89.7%	81.2%

未婚者対象 アンケート結果	男性		女性	
	20代	30代	20代	30代
家族を養うほどの収入がない	44.6%	41.0%	15.9%	11.0%
結婚したいと思える相手がいない	22.5%	36.5%	41.9%	51.6%

婚活経験のある既婚者対象 アンケート結果	男性	女性
婚活が現実の結婚につながった	40.5%	44.2%

2013年第7回結婚・出産に関する調査 明治安田生活福祉研究所より

(2) 施策の体系と進行管理～あび恋プロジェクトと少子化対策室～

『婚活(結婚活動)支援』を中心に、その前段階の出会いから応援する『恋活(恋愛活動)支援』、結婚を意識できない又は結婚に踏み切れない理由として挙げられる経済的不安の解消を目指して行う『経済的支援』、各支援等に関して周知するための『情報発信』の合計4つの事業を提案します。

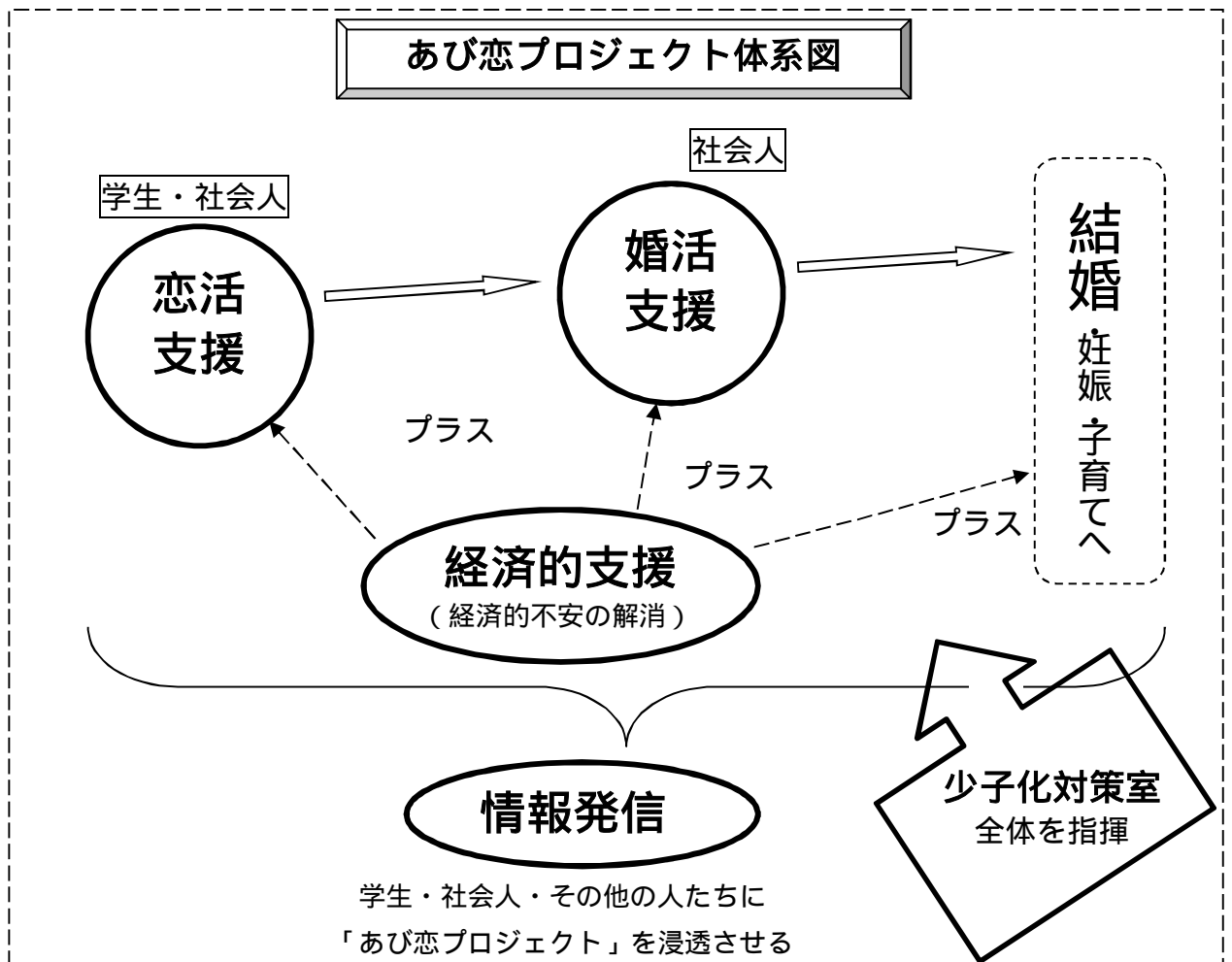


全体の統一感を持たせるとともに、よりインパクトを強めるため、総合して『あび恋プロジェクト』と命名

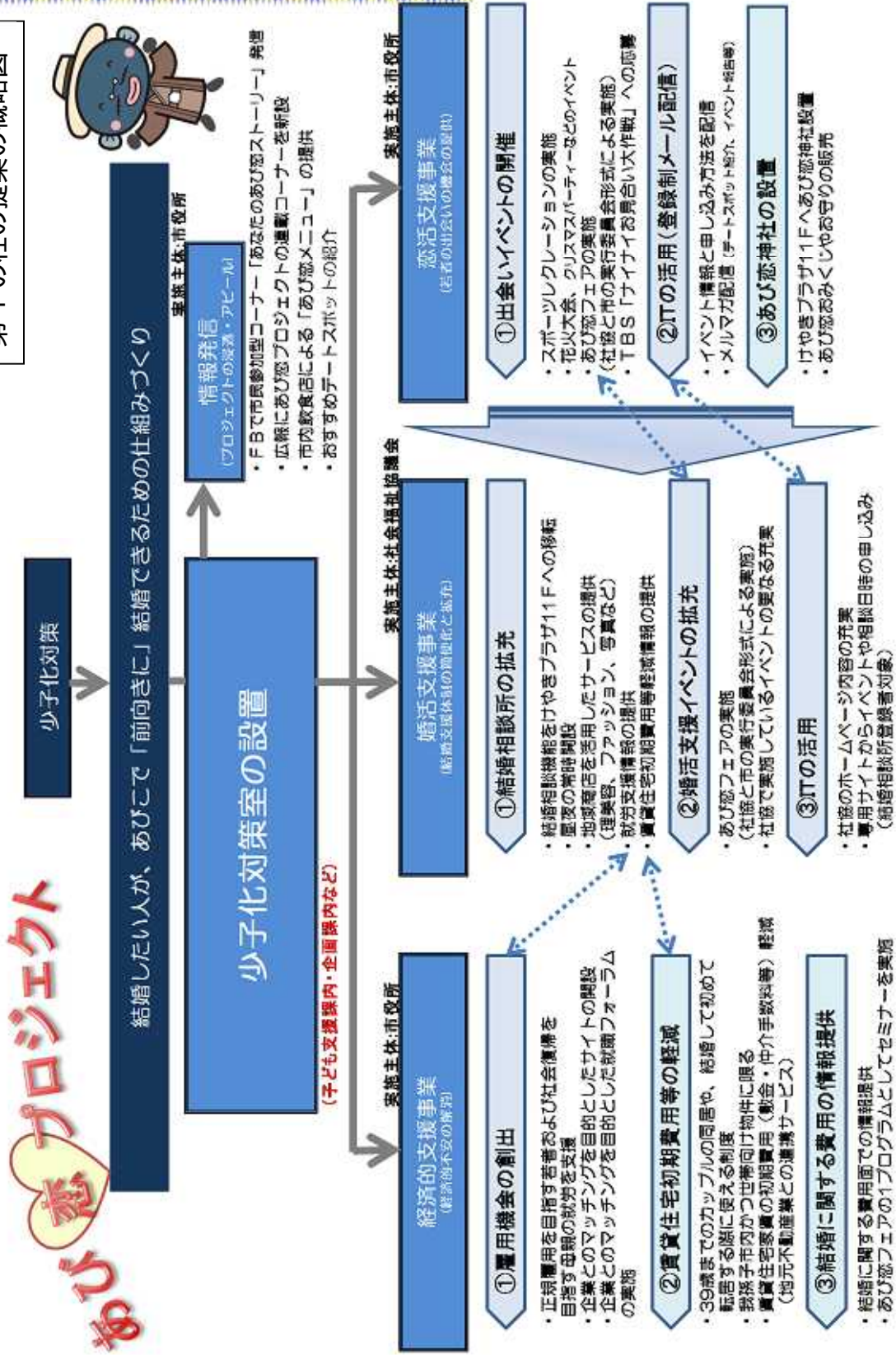
(第1の柱の提案の概略図 次ページ)

また大前提として、少子化対策(結婚・出産・子育ての支援策)を統括する部署を1か所設置し、進行管理を明確に行います。例えば、企画課・子ども支援課等の課内室として『少子化対策室』を設置することが想定されます。

各事業については担当部署がそれぞれ担い、少子化対策室で全体をコントロールします。後述される各柱のプロジェクトも同様とします。



第1の柱の提案の概略図

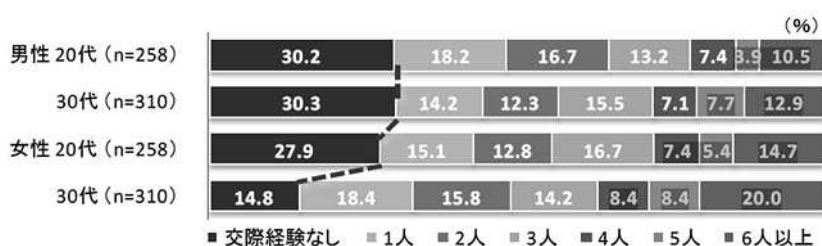


2-1-1 恋活支援事業（若者の出会いの機会の提供）

(1) 施策の背景

未婚男性は20代・30代ともに3割が異性との交際経験がなく、また女性の場合も20代では約3割が交際未経験という調査結果がでています。さらに結婚をしない理由の一つに「出会いがない」といった調査結果もでていることから、行政が出会いの場を提供し、晩婚化の解消、若者の結婚へのきっかけづくりを行っていく必要があります。

異性との交際経験（20代・30代の未婚者）



2013年第7回結婚・出産に関する調査 明治安田生活福祉研究所より

(2) 施策の目的・目標

- ・晩婚化の解消、若者の結婚のきっかけづくりを目的とし、若者を対象とした恋活イベントを実施します。
- ・若者の出会う機会を増やすためのイベントの開催数を当初の目標とし、軌道に乗ってきたら、イベント開催時にアンケート調査を行い、恋活ができたか調査し達成度等を点数化します。最終目標は、イベントでのカップルの成立数を目標にしていきます。

(3) 施策のターゲット

出会いを希望する若者（18才から30才）

(4) 施策の内容

出会いイベントの開催（一人参加、グループで参加できるものを企画）

出会い系イベントの充実

- ・鳥コン バードウォッチングなどを利用したイベント
- ・鳥の博物館など我孫子の既存の資源を利用した婚活の実施
- ・五本松公園バーベキュー大会 ・七夕パーティー
- ・手賀沼花火大会 花火大会の会場にて出会いパーティー開催
- ・ハロウィン仮装パーティー

第2章 少子化対策の提案 ~3つの柱から~



- ・中央学院大学と川村学園女子大学 合同クリスマスパーティー等スポーツレクリエーションの充実を図る
 - ・フットサル大会・スワンボートレース・サイクリング・芋掘り大会あび恋フェアの実施(市と民間(結婚相談所事業者等)が連携して実施)
 - ・結婚相談所のイベント内容PR ・あび恋パーティーの実施
 - ・相談所で出会い結婚した人のトークショー
 - ・結婚式場のPR(ドレスなどの試着など)
 - ・式場料理の試食・模擬結婚式
 - ・ゼクシー(結婚情報専門誌)など出版関係のPR
- TBS「ナインイお見合い大作戦」へ応募(テレビ番組への応募)
- ・TBSで年2回放映されている「ナインイお見合い大作戦」へ応募し、採用の場合、我孫子市のPRと婚活・恋活事業のPRになる。番組内容は、我孫子市在住の男性20名に対して、全国から女性がお見合いに来るというストーリーであり、お見合いが成功し、成婚へつながれば我孫子市の定住化と少子化にも繋がる事業。

ITの活用

- ・イベント情報をメール配信(登録者に対して)
- ・ネットでのイベント申し込み・メルマガの配信(デートスポットの紹介、イベント報告など)

あび恋神社の設置

- ・我孫子で恋するランドマーク
- ・けやきプラザ11Fへあび恋神社を設置
- ・「あび恋みくじ」や「あび恋お守り」の販売
- ・中学生、高校生、大学生対象の話題づくり(パワースポット・聖地巡礼)

(5)施策の強み

第1ステップは出会いから。

各イベントに参加することにより出会いが始まる。



第2ステップは恋の予感。

継続イベントに参加することにより、出会いから恋へ発展する予感がする。(例えば農業体験など、種まきから収穫までの継続したイベントの企画)



第3ステップはプレ・マリッジ。

若者があび恋フェアに参加することで、結婚へのイメージが湧く。

第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～

- ・あび恋フェアでは結婚を考えているカップルやまだ結婚は考えていないカップルなどにも来場してもらい、今後の結婚活動に対するイメージや情報の提供をすることで迷いや不安の解消（結婚資金、結婚準備などの問題解消）にもつながり、結婚へ。
- ・各イベント会場では、我孫子の魅力をPR（住宅補助金制度など）することにより、我孫子市への転入を促していく。
- ・若者の結婚へのきっかけづくりで、カップルになれなくても、婚活支援の結婚相談所の利用へつながっていく。

(6) 施策実現の課題

- ・民間との連携、協力が必要
- ・市と民間でイベントを共同実施する際の形式(実行委員会、後援等)
- ・共同イベントの場合は予算が把握しにくい。

2 - 1 - 2 婚活支援事業（結婚相談所の拡充）

(1) 施策の背景

子どもの出生数減少の大きな原因として、未婚者の増加や晩婚化が挙げられます。この課題の対応として結婚につながる「婚活」の推進が、重要な解消策の1つであり、「結婚を望んでいるが出会いがなく結婚できない人が結婚できる」支援が必要であると考えました。（「結婚」は個人的な考えや価値観に係る問題であり自由な選択が最優先されるものでもあることを前提とします。）

(2) 目的・目標

- ・最終的な目標としては成婚数の増加
- ・そのための段階として結婚相談所の登録者、及び婚活イベントの参加者の増加
- ・成婚後、我孫子に住んでもらう。

(3) 施策のターゲット

- ・結婚を考えているがどうすればよいのかわからない人(具体的な手段等)
- ・結婚を本気で望んでいる人
- ・結婚に関する情報を必要としている人

第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～

(4)提案の内容

我孫子市内にも結婚相談の事業をする団体が活動していますが、その中でも長年にわたり、我孫子市社会福祉協議会が地域の福祉活動の一環として結婚相談事業を実施し、成果をあげています。

我孫子市社会福祉協議会の結婚相談事業の現況と実績（H26.3現在）

登録者数：203名 男性128名 女性75名

（市内在住：男性55名 女性39名）

（市外在住：男性73名 女性36名）

登録者の多くは東京近郊に勤務

平均年代：男性40代 女性30代

25年度新規登録：男性64名 女性41名

来談者数：200件

お見合い件数：125件

成立：交際中11組 婚約中2組

結婚5組（2組が我孫子市に在住）

社会福祉協議会結婚相談件数等推移

	相談件数	新規登録者数	お見合い件数	結婚成立件数
平成21年	204	42	41	3
平成22年	198	59	62	2
平成23年	186	48	55	2
平成24年	194	82	83	1
平成25年	200	105	125	5

我孫子市社会福祉協議会調べ

ただし、我孫子市社会福祉協議会の結婚相談事業もいくつかの課題を抱えています。

現況の課題 相談環境について

- ・月に2日の相談日の設定が難しく、また事務所での個別面談対応のため、1日につき6～9件の対応が限度
- ・上記の現況のため、登録者が相談などの予約がとれない。
- ・日曜日に開設しているが、場所が駅等から離れていて立ち寄りにくい。
- ・2名の職員が結婚相談を担当しているが、他の職を兼任しており、新たな担当職員を増員できない。

公的機関が運営している安心感などから結婚相談やお見合いが、年々増加し、事務所内で実施や細やかなフォローなどの対応が困難になってきている。

現況の課題 登録者等について

- ・登録者の平均年齢が比較的高く、女性の登録者が少ない。
- ・結婚相談所自体の存在があまり知られていない(特に若い世代)。
- ・成婚しても市外に住んでしまう。
- ・結婚相談の情報提供が中心になり、市の魅力や施策が伝えきれない。

結婚相談事業の魅力と利便性の向上を図らないと登録数が増えず、結果として成婚数が増えていかない。また我孫子市の情報が少ないと成婚後、市で暮らしていくライフプランのイメージがしにくい。

以上の課題について以下の提案をします。

結婚相談所の拡充

結婚相談事業自体を市直営で実施することも検討しましたが、全くの新事業となるため、成婚数を増やすことにつながる「十分な手法」や「サービスの提供」ができる予算の算定が不明確です。また委託等により実施したとしても、民間事業者の高額な登録料からもわかるように、予算の範囲内で利用者が満足できるサービスを提供し、成婚に結びつけることは難しいと考えます。

したがって公的機関の運営による安心感、すでに婚活事業に実績を挙げていること、また地域の実情に精通している我孫子市社会福祉協議会の結婚相談事業を拡大・充実させていくことが、効率的であると考えました。

婚活相談・お見合い件数が年々増加し、社会福祉協議会事務所内での実施やフォローなどの対応が困難になっています。

このような現状を踏まえ、環境整備として、フリースペースとなっているけやきプラザ11階を利用し、婚活相談・お見合い・イベントの事業の一部を実施し、日数の増加と場所の確保を支援します。また、我孫子駅の近くに立地しているため仕事帰りに立ち寄りやすく、より遅くまで開所できるため、利用者の利便性が向上します。

このような事業展開に伴って登録者の増加も予測し、さらによりきめ細かい相談・フォローなどのサービスの向上を図る体制整備のために結婚相談員を増やすなど人的な支援の補助も必要であると考えます。

さらに市と連携し、市の魅力や「若い世代の住宅取得補助」などの定住化策の情報を、相談当初から相談者に提供することによって、市で暮らすイメージを明確にし、転入・定住化に繋げていきます。

第2章 少子化対策の提案 ~3つの柱から~

また、下記に掲げる手法も検討し、まちの活性化につながる事業展開を支援します。

- ・成田線を利用した婚活イベント
- ・地域等と連携したアドバイス
理容・美容・ファッション・写真等について地元商店等と連携
- ・地元の企業、団体と連携し、イベント開催を連携
- ・結婚祝い金の支給
登録者が結婚し我孫子に住んだ場合等の条件を設け祝い金を支給

婚活支援イベントの拡充

- ・あび恋フェア(仮)の実施

大型の婚活・恋活イベントを市と団体とで連携し実施します。

民間(地元企業など)とのタイアップも視野にいれ、模擬結婚式、結婚式場のPR(式場料理の試食、ドレスの試着等)に加え結婚相談所のPRも行い結婚相談所の認知と女性登録者の増加を目指します。

- ・婚活支援イベントの拡大

スタッフを増やすことにより、現在は年5回程度開催しているイベントを年10回程度に拡大し、出会いの場を増やします。

さらにイベント終了後の市内のレストランなど利用を促します。

ITの活用

若い世代の登録者が一定数確保できたら、お見合いのセッティングのお知らせ等でインターネットを活用し、パソコン、スマホ、携帯電話でのアクセスに対応できるように検討します。

(5)施策の強み

新規性やインパクトには欠けるが、既に成果も出ているので確実な効果が望める。

(6)施策実現の課題

- ・実際に事業を実施する主体は社会福祉協議会のため、市としての関わり方を検討する必要がある。
- ・どのように定住化へ結びつけていくか。
- ・地域や他団体との協力が必要
- ・妊活事業など他事業との連携
- ・結婚相談所会員登録料について

2-1-3 経済的支援事業（経済的不安の解消）

施策の背景

少子化の要因の一つは未婚化といわれています。また、若者の経済的苦境（正規雇用が獲得できない、収入が不安定など）は、未婚化を進めるともいわれています。未婚率の上昇が止まらなければ、出生率が本格的に回復することはありません。少子化対策においては、産んでからの支援にも増して、若い世代が家族を形成できるよう、経済的支援を厚くし、経済的な自立を促すことが必要です。また逆に言えば、若者の経済的不安を解消することで、少子化に歯止めがかかることを期待できると考えます。

雇用機会の創出

データからみる雇用と結婚の現状（調査対象年齢：20～39歳）

正規雇用の割合	既婚者	未婚者
男性	88.1%	62.7%
女性	14.2% ()	45.3%

() 夫の正規雇用者率は88.2%

年収300万円以下の割合（男性）	既婚者	未婚者
	18.1%	44.2%

男性未婚者の結婚意向 （結婚するつもりはない）	正規雇用者	非正規雇用者
	12.2%	28.4%

第一生命 LifeDesign REPORT「若年未婚者の雇用と結婚意向」より

未婚者が求める少子化対策では、『雇用の安定』が34.0%を占めます。またその内訳は、『雇用機会の創出』46.9%、『労働力不足職場への就労支援』が32.4%。つまり...若者の雇用状況と収入の安定を支援する取り組みが必要です。



2-1-3-1 求人情報サイトの開設と就職フォーラムの開催

(1) 施策の目的・目標

- ・企業との面談の機会提供や、就労訓練機関の斡旋等により、若者の就労を支援することで経済的不安を解消し、結婚の早期化を促します。
- ・結婚や出産後の女性の就労を支援することにより、世帯の経済的不安を解消し、世帯出生率の上昇を目指します。

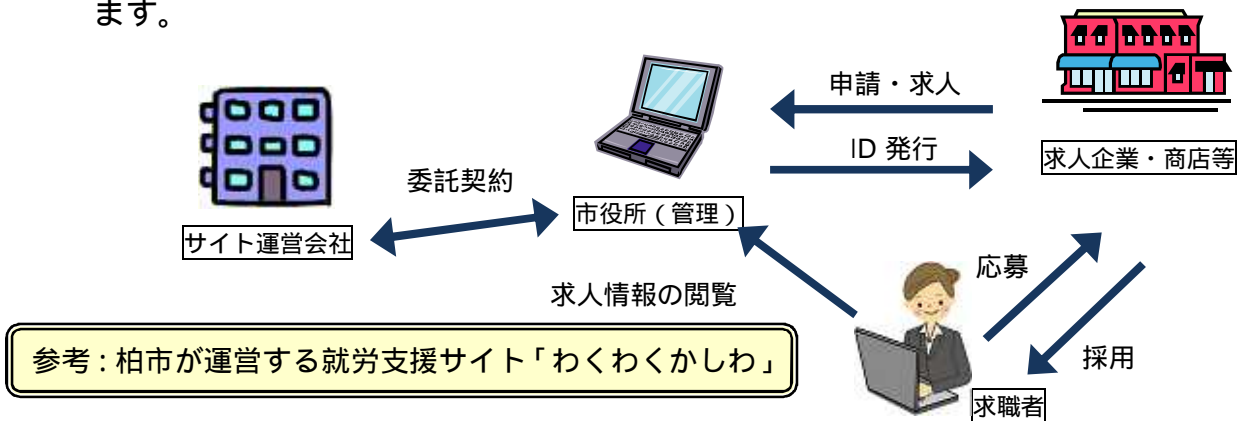
(2) 施策のターゲット

既卒者～若年の求職者および就職を希望している母親

(3) 施策の内容

求人情報サイトの開設

- ・市が求人情報サイトを開設し、市内および近隣市の求人情報をリアルタイムに発信します。
- ・サイトの運営と事業者の登録管理は市が行い、求人情報の更新は登録事業者が行います。
- ・事業者登録手続きをハローワークよりも簡便化することで、地域の求人情報を発掘し、地域に根付いた就職を促すことで、結婚後の定住化につなげます。



【登録者団体数】

登録団体：526社 求人団体：76社
(平成26年10月1日現在)

【サイトアクセス数(月毎)】

PC：3000～3500
携帯：1000～1500

【ハローワークとの住み分け】

- ◇ 企業登録が簡単なため、中小団体でも募集をかけやすい。
- ◇ 地域密着の求人であるため、転入や定住化の効果もある。

第2章 少子化対策の提案 ~3つの柱から~

<事業費用見込み>

サイト立ち上げ費用：60,000円+消費税
+サイト管理料(月額):60,000円×12ヶ月+消費税

サイト運営初年度費用：780,000円+消費税

企業宛DM発送郵便代：82,000円(1通82円×1,000社の仮定)

初年度事業費用 = 938,000円(消費税10%で試算)

2年度目以降費用 = 792,000円(60,000円×12ヶ月+消費税)

(サイト関連費用は、株式会社エスタ(柏、松戸をはじめ全国の自治体の就労支援サイト事業を複数受託)にヒアリング)

就職フォーラムの開催

我孫子市内を優先とし近隣市を含めた雇用者を招集し、会社説明会や就労に関する情報提供を行います。

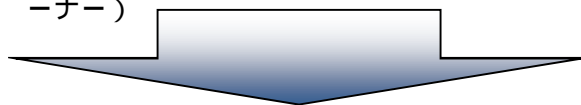
開催頻度：年1回

開催場所：けやきプラザホールおよびエントランス

出展内容：雇用機会(市内・近隣市企業および行政、正社員・パート募集企業)

就労支援(ハローワーク、ジョブカフェちば、サポートステーションかしわ、行政の求人情報)

母親支援(ファミリーサポート、Asmama、先輩ワーキングマザーへの相談コーナー)



自治体の就労支援を請け負っている人材派遣会社にリサーチした結果・・・

今後は景気の回復が見込まれるため、若者が就職しやすくなる見通し。

一方、女性活躍推進が加速するため、女性(特に母親)の就労を支援する取り組みが重要となります。

よって今後は・・・専業主婦の社会復帰に関する仕組みを検討していく必要があります。

あくまでも現時点の景気予測に基づくものであり、今後の景気動向にも注視していく必要があります。

(4)施策の強み

・正規雇用、パート勤務を問わず就労に直結する施策

- ・行政が主体となることで、求職者がより安心感をもって就職活動を行うことができます（待機求職者の発掘およびバックアップ）。
- ・結婚相談所登録者から寄せられる、我孫子市での求人情報を知りたいという要望に対応出来ることで、他市からの転入者の増加が期待できます。

2-1-3-2 賃貸住宅初期費用等の軽減

(1) 施策の目的・目標

一般的に「結婚＝お金がかかる」というイメージが強いですが、挙式等にかかる費用はいわゆる“地味婚”をすれば費用を大幅に削ることができます。

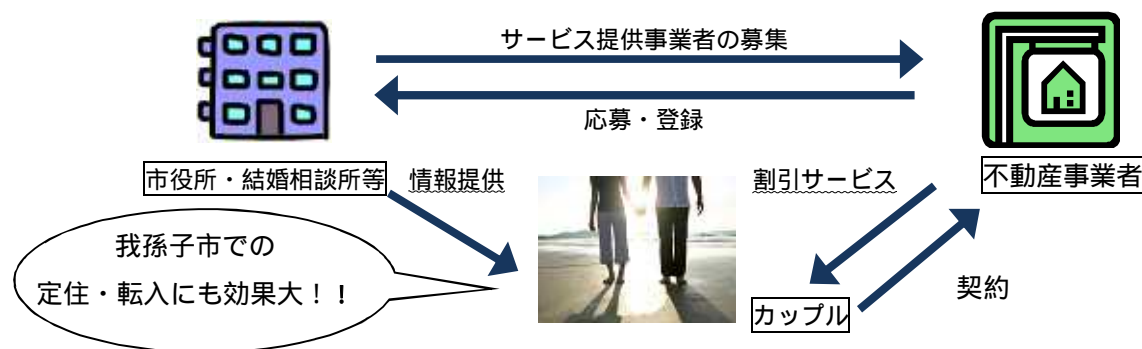
一方住宅は結婚や出産などを機に住み替えた場合、引越し費用、敷金や礼金などである程度の費用がかかります。既に戸建やマンションの購入などの住宅取得に対する補助を市では実施していますので、戸建などの取得前の若い世帯の賃貸住宅初期費用を補助します。結婚などを考える若者を経済的に支援し、また我孫子市での定住化にもつなげていきます。

(2) 施策のターゲット

市内在住で結婚を機に転居、および結婚を機に転入してくるまでのカップル

(3) 施策の内容

- ・我孫子市が提携業者を募り、不動産事業者の負担で、我孫子市内物件の初期費用（仲介手数料割引、礼金減額、家賃1か月分免除など）を補助
- ・サービス提供不動産業者については、市と結婚相談所事業者が、HPやチラシ作成、結婚相談所窓口などで全面的にPR



・サービスを受ける際の条件(例)

我孫子市内かつ2人以上が居住する間取りの物件（独居向け、子ども居住不可の物件等は対象外）、男女ともに出産年齢以下であること。

現在交際中のカップル、または結婚して初めて転居をする夫婦

(4) 施策の強み

- ・結婚にかかる初期費用に対し、経済的支援を行うことにより、結婚のタイミングを早める効果が期待
- ・若い世代の住宅取得や住宅リフォームへの補助に加え、その前段階の賃貸住宅への支援を行うことにより、我孫子市での定住をトータル的にサポート
- ・補助にかかる費用は事業者負担の仕組みとするため、少額な事業費(チラシ作成費用等)で運営

2 - 1 - 3 - 3 結婚に関する費用の情報提供

(1) 施策の目的・目標

未婚者は「結婚＝お金がかかる」というイメージを持っている場合が多いですが、実際どれくらいの貯金が必要なのか、何にどれくらいお金がかかるのか等、具体的な知識は少ないと考えられます。また、既婚者の友人がいても、金銭的な内容は聞きにくいので、結婚・出産・育児・老後に関する実際の費用等について情報提供をすることで、結婚に対する漠然とした経済的不安を解消していきます。

(2) 施策のターゲット

未婚の男女

(3) 施策の内容

結婚・育児・老後にかけてのライフプランについて、経済面から捉えたセミナーを開催する(あび恋フェアとの同時開催を想定)。

(4) 施策の強み

- ・結婚に対するイメージを具体化させることで、結婚を前向きにかつ身近なものとして考えるきっかけとなる。
- ・自身のキャリアデザイン、キャリアアップ、ライフデザインを見つめなおし、就労意欲を促進できる。

「2 - 1 - 3 経済的支援事業」全体の課題

- ・経済的支援事業は、民間との連携が第一であり、市と民間事業者が共に効果(利益)があがるものでなければ成立しない。
- ・経済情勢に影響されやすい事業であり、継続性の確保が難しい。
- ・サービスを受けるための条件の確認方法が難しい。

2-1-4 情報発信（プロジェクトの浸透・アピール）

(1) 施策の背景

各事業を充実させるだけでなく、効果を高めるための情報発信が不可欠です。若い世代に対し、ポスターやチラシのみの発信では伝わりづらいので、プロジェクトにインパクトを持たせ、インターネットやメール等の活用を中心に、世間に浸透させるための取り組みが求められます。

(2) 施策の目的・目標

各事業の効果を高め、目標達成につなげるインターネットの閲覧数やメール配信登録者数等、情報の受信者数の増加を目指します。

(3) 施策のターゲット

学生（主に大学生）から社会人までの未婚者 <高校生から若い世代>

(4) 施策の内容・強み

Facebookで市民参加型コーナー「あなたのあひ恋ストーリー」を発信

市民や市内での出来事を中心に、公募、アンケート、インタビューなどにより情報を広く収集し、市のFacebookに月に1、2回程度掲載していきます。

例えば 婚活イベントなどで実際にあったエピソード、
結婚しようと思ったきっかけ、青春時代の恋の思い出
新婚カップルのノロケ話、私の恋愛成就必勝法

<強み>

- ・市民に限らず、より身近かつ気軽なものとして「恋活 婚活 結婚」を意識させることができます。
- ・受け手は、自らの恋活や婚活に活用できます。
- ・若い世代が親しんでいるツール（Facebook）を利用することで、公的な情報に対する敷居が低くなります。
- ・恋愛ネタに対する閲覧者からの反応は比較的良い（恋愛ネタが好きな人は多いようです）。記事を多くの人に目にしてもらえます。



実際に公式 Facebook に「何気ない道も、かつて高校生の中で「カップルロード」と呼ばれていた」という話題を投げかけたら、大きな反響がありました。

我孫子市公式 Facebook より(若松の住宅街の中の道路)

施策の内容

広報にあび恋プロジェクトの連載コーナーを新設

あび恋ストーリー、市内のおすすめデートスポット、恋活イベント情報、社協の婚活事業、成婚したカップルなどを紹介するコーナーを広報あびこに設け、1～3か月に1回程度掲載します。

<強み>

- ・連載コーナーとして設定することで、世代を問わず、市民にプロジェクトを広く知らせることができます。

～あびこで恋しよう～

♡あび恋プロジェクト♡

我孫子市結婚相談所を利用しませんか？

出会いから結婚までをトータルサポートいたします。市内・市外在住者を問わず、随時登録者が増えていますので、新たな出会いにご期待ください！まずはお友達から...という気軽な登録も大歓迎です。日帰りバス旅行など、楽しいイベントも開催しています。

～登録の流れ～

1. 電話またはメールで資料請求(パンフレット・申込書等) 社会福祉協議会ホームページからダウンロードできます。
2. 資料が届いたら、書類に記入
3. 相談員との面談日を予約(電話またはメール)

社協の結婚相談所(登録者募集・日帰りバス旅行など)や出会いの場となるイベントも紹介

第2章 少子化対策の提案 ~3つの柱から~

市内飲食店による「あび恋メニュー」の提供

「あび恋メニュー」として宣伝できる飲食店のメニューを募集し、店で提供してもらう。新作のみに限らず、あび恋と関連付けられるものであればメニューに追加し、市でPRしていきます。

<強み>

- ・料理の写真を撮る若者（特に女性）は多く、SNS や口コミなどで広がりやすい。
- ・市内飲食店を巻き込むことで、商業振興にもつながります。

あび恋メニューのイメージ 例

- ・恋などに関連したネーミング
- ・写真撮りたくなる見た目、形
- ・2人でシェアできる大きさ、量
- ・スイーツなどの甘いもの
- ・女性が思わず食べたくなる
- ・カップル限定の特典がある
- ・季節感（クリスマス、バレンタインデーなど）
- ・赤色、ピンク色
- ・恋愛成就などの逸話がある

おすすめデートスポットの紹介

あび恋メニューやイベント情報なども取り入れながら、おすすめデートスポットやデートプランを紹介します。Facebook、市のホームページ、社協のホームページ、メール配信、ブログ、広報などを活用します。

<強み>

- ・市の魅力発信につながる。
- ・市外から足を運んでもらうきっかけになる。
- ・商業振興にもつながる。

（手賀沼公園の紹介イメージ）

~あびこで恋しよう~

♡あび恋プロジェクト♡



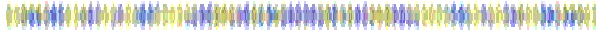
（アクセス）
JR 常磐線我孫子駅南口 徒歩約10分

ロマンチックなデートにオススメなのは、手賀沼公園の“語りベンチ”から眺める夕日。晴れた日のデートの途中にひと休みするにはピッタリです。

水面に伸びる黄金の帯は、キラキラと特別な輝きを放っています。

きっと二人にとって忘れられない時間が過ごせることでしょう！

第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～



(紹介の文面のイメージ)

体を動かしたい

運動不足が気になる2人は、金欠の今こそ悩みを解消するチャンス！というこで、ここぞとばかりに健康的なデートを。

「パレスサイクリングコース」では、毎週日曜日に自転車を無料で貸し出し、皇居前の一般道が特別に開放され、サイクリングを楽しめます。区間は内堀通りの祝田橋～平川門間、往復約3km。しかも、一部の地域を除いて一般道では乗ることのできない2人乗り用“タンデム車”も貸し出され、区間内では兼車OK！これなら、デートらしいサイクリングになりそうですよね。



体を動かすってなんて爽快！

皇居周辺のお堀と松の緑に囲まれた景色を満喫しながら軽快に走れば、疲れ気味だった体と心が軽くなり、スッキリ感を味わえますよ。

■パレスサイクリングコース

皇居前・内堀通りの祝田橋～平川門 往復約3km
開催時間：毎週日曜日10:00～15:00まで（雨天・イベント開催時中止）
アクセス：東京メトロ千代田線「二重橋前」駅2番出口より徒歩3分
（自転車貸し出し受付場所は、皇居前警備派出所横の案内所）

<問い合わせ先>

〈財〉自転車産業振興協会内パレスサイクリング運営委員会
TEL：03-5572-6412
〈月～金10:00～17:00、祝日除く〉

都内を紹介するようなイメージで、目的別にデートスポットやプランを発信する。

参考：All About 旅行 穴場の無料スポットより

<http://allabout.co.jp/>

レンタサイクル

etc...

ひと休みしたい

歩き疲れてそろそろひと休み、というムードになったら行きたいのが「丸の内カフェ」です。ここは、随所に観葉植物が配置された緑溢れるフリースペース。



カラフルなソファに座って新聞や雑誌を閲覧できるほか、約800冊ものアートや趣味関連の蔵書が揃っています。また、アーティストの作品展示や各種セミナーなども。

休憩だけでなく、ライブラリー、ギャラリーとして様々な使もちろん、待ち合わせにも最適ですよ。

■丸の内カフェ

住所：東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル1F
TEL：03-3212-5025
料金：無料
営業時間：平日8:00～21:00、土日祝11:00～20:00
定休日：なし
アクセス：丸の内線丸の内駅より徒歩1分

鳥の博物館
水の館
白樺文学館
杉村楚人冠記念館

芸術に触れたい

感性を磨きたいときには、美術館で知的にデートといきましょう。しかし、お金をかけずに絵画を鑑賞できるなんて、果たしてそんな場所があるのでしょうか？……美はあるんです。

「国立西洋美術館」では無料観覧日が設けられ、毎月第2・第4土曜日と文化の日（11月3日）は、常設展のみ無料で入館できるスペシャルデーとなっています。

常設展で鑑賞できるのは、中世末期から18世紀末頃までに活躍した作家やモネ、ルノワール、ゴッコンをはじめとした印象派など、19世紀から20世紀前半にかけてのフランス近代絵画や彫刻を中心とした作品の数々。

今年開館50周年を迎えた歴史ある美術館で、西洋の様々な芸術や文化にじっくりと触れてみてください！



アウトドア席もたまには知的デートを © 国立西洋美術館

■国立西洋美術館

住所：東京都台東区上野公園7-7
TEL：03-5777-8600（ハローダイヤル）
料金：常設展観覧料 一般420円、大学生130円、高校生以下および18歳未満・65歳以上無料 ※毎月第2・第4土曜日と文化の日（11月3日）は無料観覧日
営業時間：9:30～17:30（冬季期間中は9:00～17:00）、金曜日は20:00まで ※入館は開館の30分前まで
定休日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月28日～1月1日）、その他臨時休館日あり
アクセス：JR各線「上野」駅公園口より徒歩1分



(5) 施策実現の課題

- ・あび恋ストーリーやおすすめデートスポットの紹介は、話題の数に限界が来た時に苦しい。
- ・イベント情報のみの発信では面白味が無いので、発信の勢いが弱まらないよう心がける。
- ・あび恋メニューは、市内飲食店から協力が必須であるため、工夫が必要
- ・デートスポットが公共施設のみでは、行ってみようという気にならないので、民間の施設や商店なども紹介することは可能なのか、どのように取り入れていけるかの検討が必要
- ・出会いのサポートを行うとともに、最終的に結婚につなげるものを目指すことから大きく外れないよう注意が必要
- ・妊活や子育て支援についても併せて情報発信をしていく。

2-2 第2の柱「子どもを産みたい人が、あびこで「安心して」産める仕組みづくり」への提案

(1) 施策の背景

最初に市の施策のなかから「妊娠～子育て関連事業の洗い出し」を行いました。

市の妊娠～子育て関連事業の洗い出し

	妊娠前	妊娠	出産	産後	4週間	2～6ヶ月	1～5歳	小学生	中学生
サービス	・しあわせママパパ学級 ・プレママ講習会 ・妊婦相談 ・妊婦訪問	・出生届 ・出生通知書 ・新生児訪問 ・育児相談	・ママヘルプサービス	・離乳食教室(4～6か月児) ・スマイルママ(短時間託児) ・公立保育園の子育て相談・園庭開放 ・市内保育園での生後6か月以上就学前児童の一時預かり ・ファミリーサポートセンター(6か月～10歳未満の子どものいる方) ・育児相談 ・産児・病後児保育 ・子ども短期入所事業 ・enjoy/いび応援プロジェクト ・にこにこ・すくすく・わくわく・すこやか広場 ・子育てサポーター ・ライフダイアリー配布 ・子ども急病電話相談 ・我孫子市休日診療所・救急病院・学童保育、あびっ子クラブ	・後期離乳食教室(8～9か月児) ・休日保育				
検診		・母子健康手帳の交付 ・妊娠健康診査 ・妊娠歯科健康診査		・乳児健康診査(3～6か月児) (9～11か月児) ・予防接種(2か月～) ・4か月児相談			・1歳6か月児健康診査 ・2歳6か月児歯科健康診査 ・3歳児健康診査 ・5歳児健康診査 ・就学時健康診断		
経済的支援	・特定不妊治療助成	・出産育児一時金 ・未熟児養育医療給付	・就園奨励費補助金 ・児童手当申請(中学校終了前まで) ・自立支援(育成)医療 ・小児慢性特定疾患治療研究事業 ・重症障害者(児)医療費助成 ・特別児童扶養手当	・幼稚園等園児補助金 ・私立幼稚園預かり保育料助成金 ・子ども医療費助成 ・結核児童療育医療の給付 ・特定疾病見舞金 ・障害児福祉手当 ・心身障害児福祉手当					

その結果、出産後6ヶ月妊娠～小中学生に対する施策は、様々なメニューの用意がされていますが、出産前、産後すぐの時期のサポートが少ないことが明らかになりました。

次に市内の産科・助産科の事業者にヒアリングを実施し、現在の妊活の課題を把握しました。

妊娠・出産の高齢化

- ・不妊治療等によって、産むことが目的となってしまう、産んだ後の子育てにまで、心の準備が整えられない。
- ・体力不足によって、育児が続かず、育児放棄につながってしまう場合がある。
- ・これまで仕事をうまくやってきた人が、育児では、子どもが自分の思うようには動いてくれないことに挫折感を感じてしまうことが多い。
- ・親世代との子育てに対する意見の相違で、両親と良好な関係がつかれず、サポートが得られない。
- ・核家族化や実家が遠方等の理由で、周囲のサポートが得られない。
子育てに不安やストレスを感じやすい。

第2章 少子化対策の提案 ~3つの柱から~

妊婦健診の継続ができていない

- ・妊娠したら、何もせずに子どもが生まれてくると思っている人が多い。
検診を継続して受けない)

若年妊娠の増加

- ・制服で妊娠検査にくる学生が増えている。
妊娠や出産に対する知識不足、 出産に対しての意識が低い。
家庭を築き、子育てをしていくことに対する前向きな気持ちがない。

妊娠・出産に向けた体力づくりができていない。

- ・骨格が出産に適さない。
- ・低体温、体力不足の人が増えている。
不妊や難産につながりやすい。
小・中学生から体力づくりや知識など早期の対応が必要

市の施策体系や事業者へのヒアリングの結果、

妊娠や出産を意識したライフプランをサポート

子どもをもつことへの様々な不安を解消し、妊娠、出産、子育てへの心理的な壁を取り除く。

妊娠、出産に対する正しい知識をもってもらおう。



地道な支援で、出生数アップ

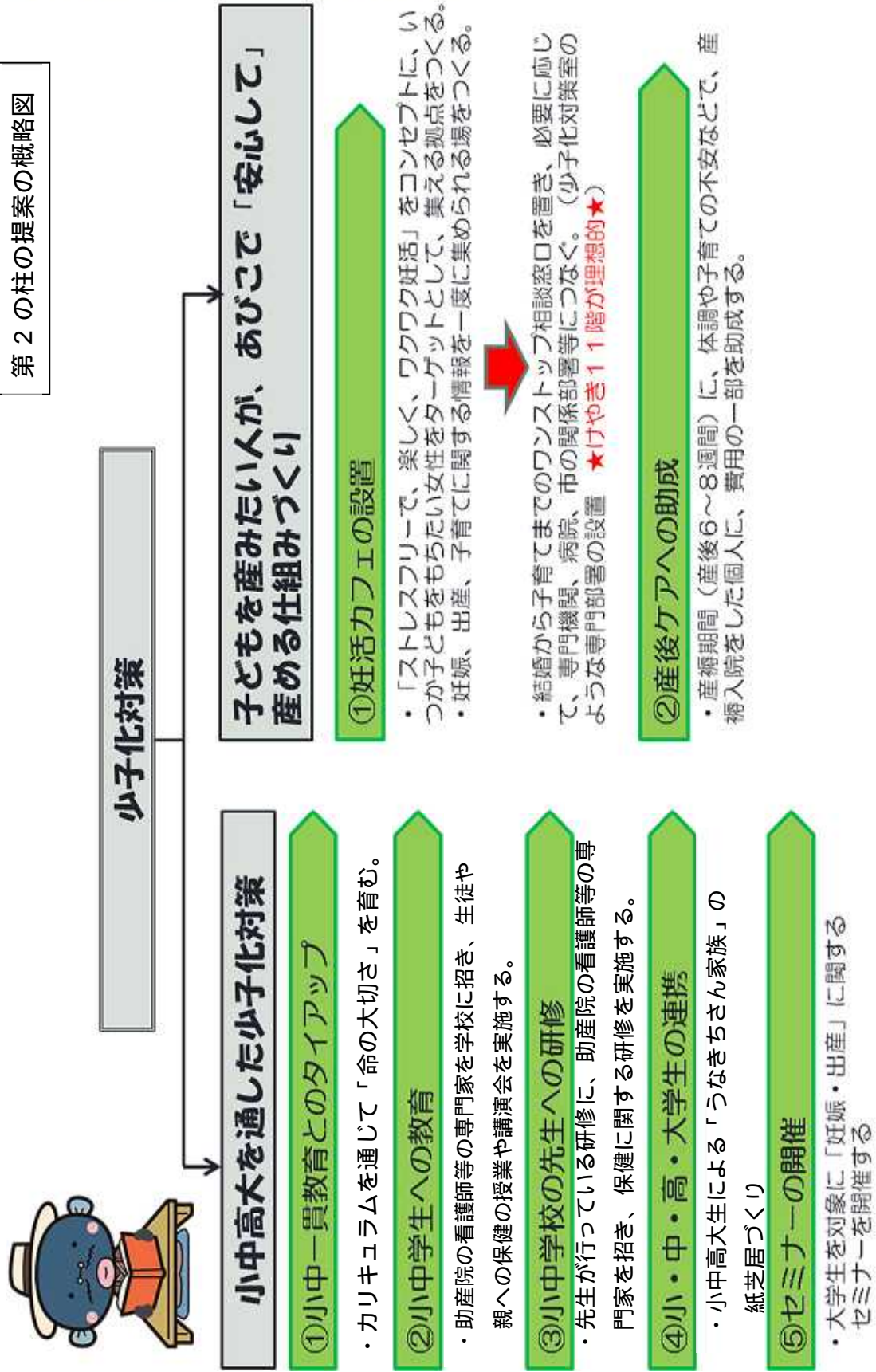
(第2の柱 提案の概略図 次ページ)

(2) (仮)ライフプランニングサポートセンター~結婚から子育てまで~

第1の柱の「提案の施策の体系と進行管理について」(p10)での提案と同様に、少子化対策(結婚・出産・子育ての支援策)を統括する部署の設置を提案します。

また、結婚から妊娠・出産、子育てまでをワンストップで相談し、情報収集ができる「(仮)ライフプランニングサポートセンターの設置」を提案します。結婚相談と、次の提案「妊活カフェ」を同じ場所で開催することにより、利用者が、結婚から子育てに関する情報を1か所で集めることができ、我孫子での結婚や出産、子育てをイメージしやすくなり、定住化につながると考えます。また、妊娠や子育てなどの相談を受けた場合は、必要に応じて、専門機関、病院、市の関係部署等につなぐことで、安心して出産できる仕組みづくりにつなげていきます。

第2の柱の提案の概略図



2-2-1 妊活カフェの設置

～ストレスフリーで、楽しく、ワクワク妊活～

(1) 施策の背景

基本的には、妊娠が判明したあとの相談、サポートを受ける窓口や場所はありますが、いつかは子どもがほしいと思っている人が情報を集めたり、気軽に相談したりする場所がないと考えられます。

様々な機関の調査結果からその背景から読み取れる課題を検討しました。

自分が妊娠できる年齢への誤解

未婚女性の91%はいつか子どもを持ちたいと考えているが、自分が妊娠できる年齢について、36.4%の女性が、45～60歳と回答

H22年度『分担課題「未婚女性の妊娠に関する意識調査」』（厚労省）より

50歳未満で結婚期間15～19年の夫婦の平均出生子ども数

(女性の結婚年齢)	20～24歳	2.08人
	25～29歳	1.92人
	30～34歳	1.50人

H22年度「結婚と出産に関する全国調査」(国立社会保障・人口問題研究所)より

婦人科系検診の受診率の低さ

子宮頸がん検診	20～30代	24.4%
	40～44歳	44.7%
乳がん検診	30代	29.7%
	40～44歳	45.9%

40歳代前半が各年齢層で最も高くなっている。

H25年度我孫子市実績 健康づくり支援課調べ

妊娠などの情報源

妊娠と年齢の関係について

頻度や確率の数値は知らないが内容は知っている 約50%

聞いたことがある程度 約25%

と回答している内、

第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～

妊娠と年齢の関係について情報を得た手段

テレビ、インターネット、雑誌などから	71.9%
医療従事者から	9.3%
行政からの広報紙や冊子から	5.3%

前述の情報を提供するメディアとして、信頼できると思うものは？

医療従事者	63.4%
テレビ、インターネット、雑誌など	38.8%
行政からの広報紙や冊子	36.0%

H25年度「少子化社会対策大綱の見直しに向けた意識調査」報告書（内閣府）より

これらの背景(調査結果等)から読み取れることは、

- ・いつか子どもを持ちたいと思いつつも、「いつ産むか」を意識したり、正しい知識を得るきっかけを持ってないでいる女性が多いのではないか。
- ・子宮頸がんや乳がんの検診の受診率が低いことや、自分が妊娠できる年齢への誤解があること、妊娠と年齢の関係について具体的な内容を知っている割合が少ないことなどの結果から、いつか子どもを持ちたいと思いつつも、「いつ産むか」を意識したり、正しい知識を得るきっかけを持ってないでいる女性が多いと考えられる。
- ・女性の結婚年齢が高くなるにつれて、出生子ども数が少なくなる傾向にある。
- ・妊娠や出産などに関連する情報を得る手段として、テレビやインターネット、雑誌などが高い割合を占めつつも、医療従事者や行政が提供する情報がより信頼性が高いと感じている人が多いことから、医療従事者や行政が提供する情報の潜在的なニーズは高いと考えられる。

(2)施策の目的・目標

- ・若いうちから、「いつ結婚するか」「いつ産むか」といったライフプランを意識してもらうための土壌づくりが必要ではないか？
- ・いつか子どもが欲しい人が、気軽に情報を集め、相談できる場所がない。
最近では、30歳代後半から40歳代で妊娠や出産をする女性が増えていることやキャリア中断への不安から、妊娠や出産を先送りにしている女性が多いと考えられます。しかし、妊娠力は年齢が高くなるにつれて低くなることは事実であり、いつか子どもを持ちたいと思っている女性に、妊娠や出産についての正しい知識をもってもらうことや、若いうち

第2章 少子化対策の提案 ~3つの柱から~



から「いつ産むか」といったライフプランを意識してもらうための土壌づくりをしていく必要があります。

(3) 施策の内容

妊活カフェ「(仮称) Women's CAFÉ」づくり

~コンセプト「ストレスフリーで、楽しく、ワクワク妊活」~

- 女性に特化した集いの場の提供。いつか子どもを持ちたい女性、今子どもを持ちたい女性、第2子目以降の出産を考えている女性、不妊で悩んでいる女性、仕事と家庭の両立に不安を抱えている女性や専業主婦など、様々な女性のニーズを満たせるような、女性に特化した場所
 - 将来の妊娠や出産のためのカラダづくりについて意識してもらえりような場所
 - 「気がついたら妊活に詳しくなっていた」というように、自然に正しい知識を得られるような場所
 - 我孫子での出産や子育てをイメージできるような場所
- 情報コーナーの併設
- 結婚から子育てに関する情報を集めたり、閲覧できるようなコーナーを設ける。
- ・子宮がんや乳がん検診について
 - ・婚活・妊活・子育てイベントや講座の情報
 - ・市が発信したい結婚から子育てに関する情報(検診、8020、保育園・幼稚園、学校、住宅助成など)
 - ・東葛エリアの病院情報 など

(4) 施策のターゲット

大学生やいつか子どもを持ちたいと思っている女性

子宮頸がん検診や乳がん検診の大切さなどを知ってもらうことにより、将来の妊娠や出産のためのカラダづくりを意識してもらう。ヨガセミナーなどカラダづくりに関するセミナーなどを開催する。

今子どもを持ちたいと思っている女性

妊娠や出産にかかる費用、妊婦検診、病院や自治体の助成制度などの情報を提供する。(スタイ(よだれかけ)を手作りしよう!講座他)

第2章 少子化対策の提案 ~3つの柱から~



出産しても仕事を続けたい女性

産休や育児休暇などの制度、保育園や幼稚園の入り方などサポート情報を提供する。

不妊や仕事と家庭の両立、経済的なことに悩んだり不安を抱えたりしている女性

同じ悩みや不安を抱える女性同士の交流や、先輩女性や専門家に相談する機会などを提供する。マネーセミナーやお弁当づくり教室など役に立つ講座を開催する。

パートナーの妊娠や出産、育児の知識不足に悩んでいる女性

夫婦で一緒に妊娠や出産、育児について学べる機会を提供する。

結婚相手や再婚相手を探している女性

結婚相談ができる機会を提供する。メイク講座などを開催する。

結婚や出産を機に仕事を辞めたが、育児が落ち着いて再就職したいと考えている女性

就職相談ができる機会を提供する。

妊娠や出産、子育て期でも自分らしさを失いたくない女性

オシャレなマタニティグッズや子供服、ママグッズなどの情報を提供する。メイク講座などを開催する。

(5)連携主体

市内大学

- ・中央学院大学（経営コース、ビジネスキャリアコース）の学生などに、カフェの設立や経営に携わってもらう。

学生のメリット：講義で習った経営のノウハウを実践で活かせる。

- ・川村学園女子大学の学生に、女子目線でカフェの企画などをしてもらう。

学生のメリット：専門分野を活かせる。

例えば...

生活文化学科...カフェのレシピ

心理学科...心理学の知見から見た快適空間づくり

観光文化学科...市内のアピール

幼児教育学科...子どもも利用する空間に必要な物等

レストランやカフェ

- ・東葛六市レストランサミット（2010年9月設立）や市内の飲食店と連携し、食育やお弁当づくりなどの講座の開催、我孫子産野菜を使ったお茶やお茶菓子などの開発をし、カフェで提供



地域・市職員

- ・男女共同参画室や出前講座と連携して講座やセミナーを開催する。
- ・子育てサークル関係等の市民団体
- ・未婚、子どものいない市職員（青年部、女性部）

カフェオープンまでのスケジュール（イメージ）

4～6月 実行委員会の立ち上げ

カフェを立ち上げるにあたって、市民の声を入れて施策を展開するために実行委員会を立ち上げる。

（検討内容）

- ・場所の選定（けやき11F、空き店舗等）
- ・経営主体（大学生、公募）
- ・内装（相談しやすい、安心できる空間づくり）
- ・PR方法（SNS、チラシ、ポスター等）
- ・カフェ内イベント展開

10月or翌年4月 カフェOPEN

- ・3年を目途に運営。軌道に乗ったら運営は民間へ。

2-2-2 産後ケアへの助成について

(1) 施策の背景

現在の出産・子育て環境の現状として3点特出されるものがあると考えました。

1点目に「晩婚化、出産の高年齢化」、2点目に「出産の高年齢化に伴い夫婦の両親の高年齢化」、3点目に「男性の子育て休暇等の取得率の低さ」が挙げられます。

1点目の出産の高年齢化¹については、市内産婦人科・助産院事業者へのヒアリングでも挙げられた課題です。また、千葉県衛生統計年報からも、平成13年度までは市内の出産年齢の最も多い年代は25～29才の間ですが、平成14年度から平成24年度までの10年間は30～34歳の割合が最も多くなり、また、平成21年度からは、出産年齢で2番目に高い多い割合が35～39才となっていることから、出産の高年齢化が進んでいることがわかります。

第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～



平成24年 我孫子市 母の年齢別出生数

総数	14歳以下	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上
942	-	14	59	222	337	255	51	4	-

県衛生統計年報より

また、2点目の両親の高齢化²については、現在の35～39歳が生まれた時の母親の出産年齢の平均が約28歳であることから、夫婦の両親の年齢は62～67歳となることがわかります。

出産・子育て環境の現状

- 晩婚化、出産の高齢化
- 夫婦の両親の高齢化
- 男性の子育て休暇の取得率の低さ



産褥（さんじょく）期間に夫・両親から十分なサポートが得られていない

産褥期間... 産褥とは、分娩（ぶんべん）後、妊娠や分娩によって変化した身体、特に子宮が、妊娠していない時の状態に戻るまでの期間。通常6～8週間。

子育てを行うなかで、産褥期間に心身ともに安定して生活することは、大変重要です。そもそも産褥期間とは、産婦が出産によって体に受けたダメージを回復するための期間となっています。

体の回復をおろそかにすると、後々の生活にも大きな影響が出てきます。そのため、出産後に母子ともに健康的な生活を送っていくためには、産後ケア助成制度の導入は必要と考えます。

精神的にも肉体的に産褥期間を安定して生活することが重要



産後ケア助成制度の導入が必要

また、3点目の男性の育児休業の取得率も2.03%³と低く、産褥期間に夫・両親からの十分なサポートが得られていない状況となっています。精神的にも肉体的にも産褥期間を安定して生活することは母子の健康の上で、大変重要であり、安心して子育てをする上で当事業の必要性は高いと考えられます。

第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～



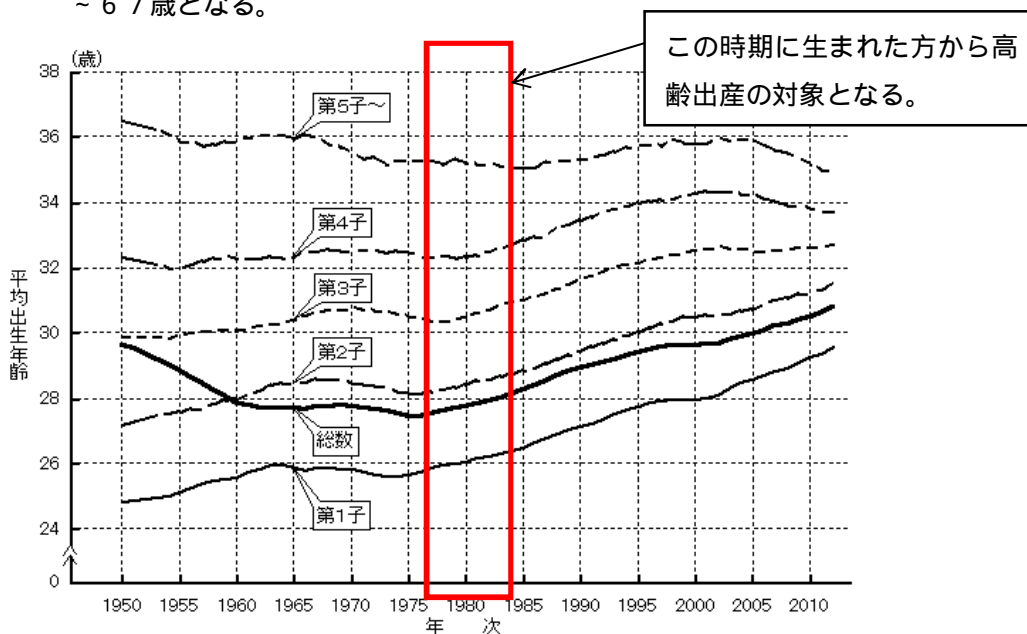
1 我孫子市 出生割合、性・母の年齢(5歳階級)(平成12年～平成24年)

年度	14歳以下	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上
平成12年	0.1%	0.6%	9.0%	40.0%	37.3%	11.2%	1.7%	0.1%	0.0%
平成13年	0.0%	1.1%	10.0%	38.7%	37.1%	11.8%	1.3%	0.0%	0.0%
平成14年	0.0%	1.1%	9.3%	32.5%	40.4%	15.3%	1.3%	0.0%	0.0%
平成15年	0.0%	0.7%	9.4%	32.6%	41.5%	14.7%	1.1%	0.0%	0.0%
平成16年	0.0%	1.8%	8.8%	30.5%	43.3%	13.9%	1.7%	0.0%	0.0%
平成17年	0.0%	0.8%	8.1%	29.4%	42.8%	16.8%	2.1%	0.0%	0.0%
平成18年	0.0%	1.1%	8.1%	27.4%	40.7%	20.8%	1.9%	0.0%	0.0%
平成19年	0.0%	0.5%	8.2%	27.5%	38.6%	21.8%	3.4%	0.0%	0.0%
平成20年	0.0%	0.6%	7.7%	24.3%	42.0%	23.2%	2.1%	0.0%	0.0%
平成21年	0.0%	0.8%	7.6%	23.3%	40.6%	24.2%	3.7%	0.0%	0.0%
平成22年	0.0%	1.0%	8.3%	23.8%	37.3%	26.3%	3.3%	0.1%	0.0%
平成23年	0.0%	0.5%	6.9%	23.6%	39.6%	25.4%	3.9%	0.1%	0.0%
平成24年	0.0%	1.5%	6.3%	23.6%	35.8%	27.1%	5.4%	0.4%	0.0%

県衛生統計年報より

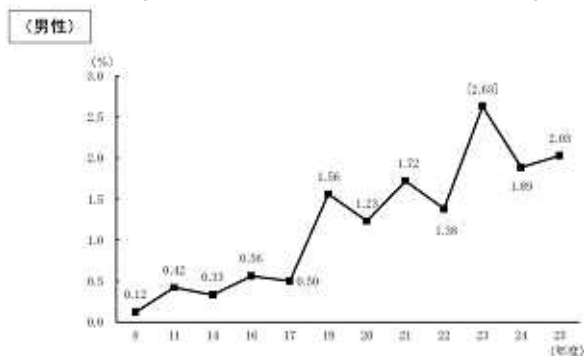
2 出生順位別平均出生年齢(国立社会保障・人口問題研究所)

1975～1980年に生まれた方(現在34～39才)の母親の平均年齢は約62～67歳となる。



国立社会保障・人口問題研究所『人口問題研究』による。

3 育児休業取得率(厚生労働省、雇用均等基本調査)



第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～

(2) 施策の対象

35歳以上の産婦で、市内に居住し、本市の住民基本台帳に記録されていること。

産後8週間以内であること。

参考として我孫子市内の対象人数は平成24年度の数値で310名となっています。今回は、高齢出産への補助という形で考えていたため35歳以上という年齢想定をしていますが、運用後に置いては対象年齢の引き下げ、撤廃も視野に入れて運用するのも検討の余地があると考えます。

(3) 施策の目的・目標

一般的な産褥期間である8週間の間に、産婦が安定した子育てを行うための支援をすることを目的とします。

(4) 提案の内容

出産にかかる退院後、産婦と新生児に対し、産後8週間以内に医療機関等に入院した際の経費または、助産師等ヘルパーの自宅への派遣費用の一部を助成します。

・助成期間

出産に係る退院後、産後8週間までの間に概ね7日間

助成期間の根拠...同様の事業を展開している自治体も概ね7日間。また、市内サービス提供事業者へのヒアリングを実施したところ、7日間程度で退院する方が多いとのことでした。

・助成額

1日あたりの費用の1/2(入院時は1日につき上限10,000円、ヘルパー派遣時は1日につき上限5,000円)

金額の根拠...県内の入院費用の平均が2万円程度であるため、半額の1万円を助成することが妥当。県内施設の一日当たりの金額の平均は約3万円だが、市内施設の利用を促進するため、市内サービス提供事業者の一日の入院費用が18,900円であることを考慮。また、同事業を展開している自治体についても上限は1万円程度となっている。ヘルパーの派遣については、一般的に一日1万円未満であることを考慮。

平成26年11月時点

・実施施設

全国の病院・助産院

市内の病院・助産院に限定することが市内病院にとっても望ましいが1か所しか対象施設がありません。また、県内に限定しても、5



施設しかないため十分なケアができないため、全国に範囲を拡大

・支払方法

退院後、申請書、病院からの診断書・請求書または、ヘルパー利用時の請求書を持参の上、申請

・事業規模

必要となる経費は、補助金、消耗品で、5,011千円

補助金額積算：100人（35歳以上で出産する母親の約3割）×10千円（一日の上限額）×7日（交付限度日数）=7,000千円
全て上限値で計算しているため、実際には7割程度（約5,000千円）

消耗品積算：事業周知用チラシ A4色紙4枚（2000枚）：5千円

公共施設掲示ポスター 長尺プリンターロール紙：6千円

(5) 施策実現の課題

実施施設について

我孫子市内に産褥入院が出来る施設は一院のみであるため、対象を全国まで広げる必要があります。その際、病院からの証明書について様式を定める必要があります。

ママヘルプサービスとの色分けについて

同様の市の事業にママヘルプサービスがあります。ママヘルプサービスではサービスを利用するための条件が多く、午前7時から午後7時までの1日1回4時間以内、希望者の自宅で実施が条件となっています。

助産師の派遣については、ママヘルプサービスと内容がほぼ同様ですが、対象を広げ、市民がより気軽に使える制度として実施したいと考えています。ママヘルプサービスの利用対象を広げることができれば助産師の派遣は不要とも考えられます。

対象について

高齢出産へのケアとして35歳以上を対象としていますが、市内で出産時、35歳以上の母親は全体の約32.9%です。年齢の区切りを付けない場合、補助対象者が3倍になるため、単純計算で予算が3倍必要となります。補助対象の区切りについては、事業開始後、段階を踏んで考慮する必要があります。

制度の認知について

ママヘルプサービス事業について、25年度の利用者は40名弱で対象の制限の問題なのか制度の周知が徹底されていないのか定かではないが、数としては少ないように思われます。事業を実施するに当たっては、周知徹底の必要があります。

2-2-3 幼保小中高大を通じた少子化対策

(1) 施策の背景

少子化の原因として

結婚することで自分の時間がなくなる？

独身の方が自由で気楽だ・・・

子育てと仕事の両立が難しそうだ・・・

子育てを上手にする自信がない・・・

などが挙げられています。

「第2回21世紀出生時縦断調査の概要」厚生労働省大臣官房統計情報部より

「第14回出生動向基本調査結婚と出産に関する全国調査」より

国立社会保障・人口問題研究所

このことから20～30代の子育て世代が、家庭を持って子育てをすることへの不安が大きいことが考えられます。この不安を解消するためには、家庭を築き子育てしていくことに対する前向きな気持ちを、20～30代の若者が持つことが大切です。

そして前向きな気持ちを持つには、

・家族の大切さや温かさ

・結婚して新しい家庭を築くことの素晴らしさ

・命の誕生の素晴らしさ

など、これらの気持ちが学校教育の中で、計画的に連続的に育まれていくことも必要です。

(2) 施策の目的・目標

我孫子市の幼保小中高大で、連続した計画的な心の教育を行い、次世代の若者が我孫子市で、希望を持って前向きに子育てをしていけるようにします。そのためには魅力ある「我孫子の教育」をしていく必要があります。

(3) 施策のターゲット

・市内保育園・幼稚園児 ・市内高校生

・市内小中学生 ・市内大学生

(4) 施策の内容

我孫子市の小中一貫教育とタイアップ

小中を一貫して、命の大切さや家族の温かさを育む教育活動を行います。



- ・命の大切さや家庭の温かさ等の観点を組み込みんだ9年間を貫く道徳教育カリキュラムを編成
- ・少子化対策の観点で、道徳資料の開発を行い市内小中学校で活用する。
(例：手賀沼のうなきちさんファミリーの紙芝居 等)
- ・自尊感情を高め、人と触れ合うことの喜びを感じる中学生と小学生の交流連携を促進します。

小中一貫キャリア教育プログラム

幼保小中を一貫して、命の大切さや家族の温かさを育むプログラムの作成を行います。

小中を超えた地域の連携

地域の小中高等学校や大学が連携して、命の大切さや家族の温かさを育む活動を行います。

- ・長期休業期間を利用し、小中高大生が参加して活動できるイベントを開催する。
(例)・命の大切さ等を伝えるための成果物(紙芝居、啓発ポスター、かるた等)を作成。
- ・成果物は、小中学校や公民館、図書館等の公共施設で活用を依頼

小中高大での乗り入れ授業やセミナーを開催

小中高大生に対して、正しい妊娠、出産の知識を身に付けさせるための授業を行います。

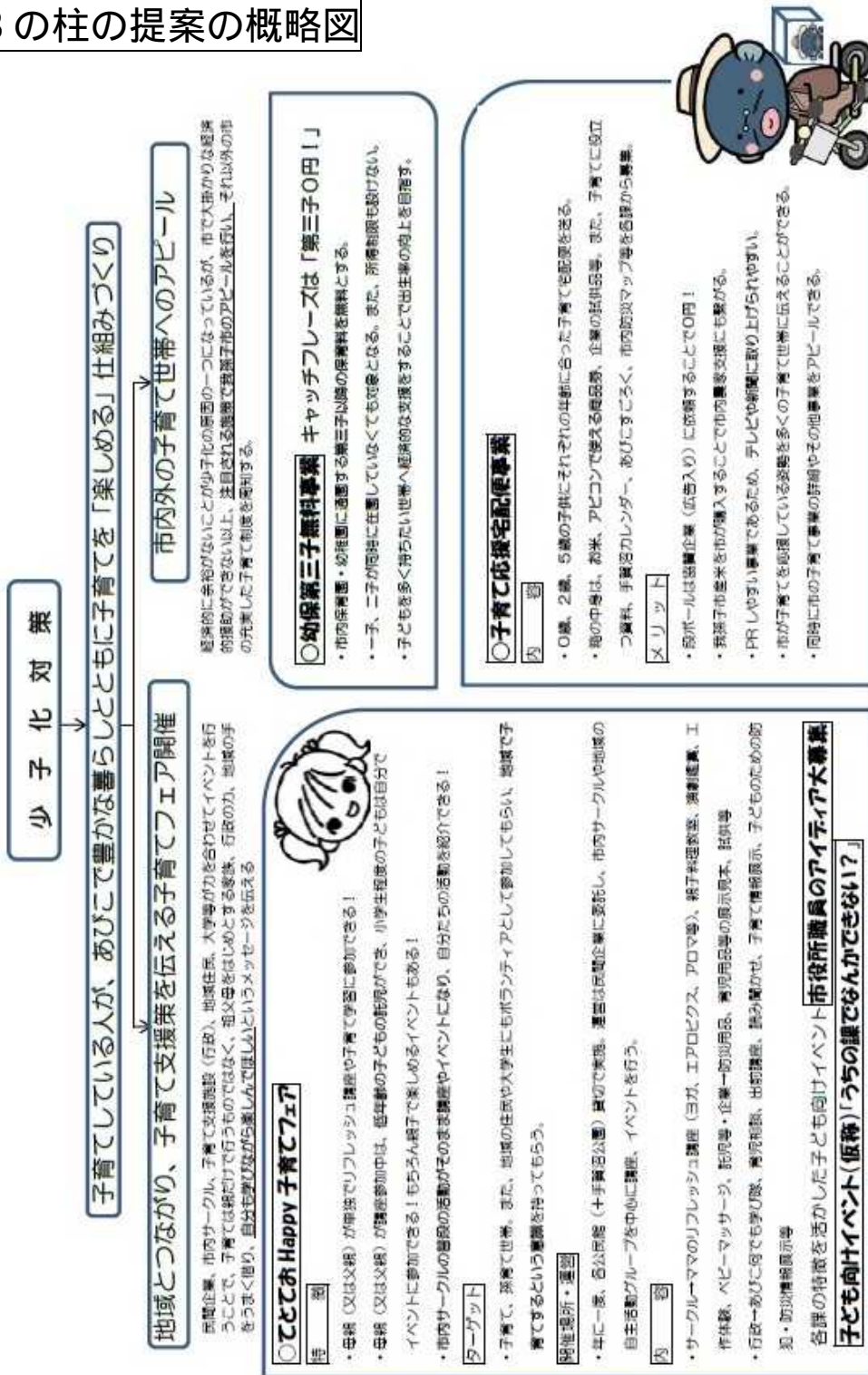
- ・小中高校では、助産師さん等の講師を招いて、命の大切さの授業をしてもらいます。
- ・性教育についても、外部講師を招いて行うことによって、適切な指導効果が期待できます。
- ・大学では、妊娠・出産に関する正しい知識を学ぶためのセミナーを開催します。

(5) 施策実現の課題

- ・すぐに成果が現れる取り組みではありません。成果が確認できるのは、10～20年後になると予想されるため、息の長い、地道な取り組みが不可欠となります。

2-3 第3の柱『子育てしている人が、あびこで豊かな暮らしとともに子育てを「楽しめる」仕組みづくり』への提案

第3の柱の提案の概略図



2-3-1 地域とつながり、子育て支援策を伝える子育てフェアの開催

2-3-1-1 (仮称)てとてお Happy 子育てフェア ～親子で、地域で、手と手を(てとてを)結んで、楽しく子育て～

(1) 施策の背景

少子化対策は、若い世代だけの問題とされてまい、全ての市民に関わることだと受け入れられません。

そのような現況のなかで、このプロジェクトを貫く柱としての「それぞれの世代が、あびこで結婚・妊娠・出産・子育てを具体的にイメージし、シミュレーションできる仕組みづくり」の趣旨とこの第3の柱との融合させる事業の検討が必要と考えます。

また、子育て支援情報「わく²すく²」等で市内子育てサークルや子育て支援制度の紹介をしていますが、紙面だけでは伝わらない雰囲気や活動内容については、実際に目で見てもらい、体験してもらうことが必要です。また、市の子育て施策についても、もっと身近に感じ、もっと手軽に利用してもらえよう、ブースでも紹介やパネル展示などでPRしていく必要があります。

(2) 施策の目的・目標

民間企業、市内サークル、子育て支援施設（行政）、地域住民、大学等が力を合わせてイベントを行うことで、子育ては親だけで行うものではなく、祖父母をはじめとする家族、行政の力、地域の手をうまく借り、自分も学びながら楽しんでほしいというメッセージを伝えます。

(3) 施策のターゲット

- ・子育て・孫育て世帯、小学生ぐらいの子どもを主なターゲットにします。
- ・人数制限のある講座等の対象者は市内在住者ですが、イベント自体は市外から来た方でも参加・見学可能とします。

(4) 事業内容・強み

- ・一年に一度、各公民館で実施（貸切）、我孫子地区公民館で開催する場合には、手賀沼公園も開催場所として利用
- ・運営は民間企業に委託し、市内サークルや地域の自主活動グループを中心にイベント、講座を作り上げる。
- ・行政ブースを設け、あびこなんでも学び隊、育児相談、出前講座や図書館の読み聞かせ等を実施

第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～



- ・子育て情報の展示コーナーを設け、各地域で、子育て孫育て世帯が頼れる場所の情報を提供
- ・子どもと防犯・防災等について考える機会を提供する。単に警察車両や消防車両の展示・試乗等のイベントだけにとどまらず、子どもを連れての避難の仕方、災害時の避難経路の選び方について考えるコーナーや、登下校時の防犯マップを作成するコーナーを設けます。

また、子どもに必要な災害用品の展示(企業提供品を利用する)や防災リュックの作り方などの講座を設け、すぐに実生活に応用できる知識を伝えます。

- ・すでに「あびこで子育てママへのごほうびフェスタ」をイトーヨーカ堂との協力で開催中ですが、この「てとてお Happy 子育てフェア」は、母親(又は父親)が単独でリフレッシュ講座や子育て学習に参加できる。

母親(又は父親)が講座参加中は、低年齢の子どもの託児ができ、小学生程度の子どもは自分でイベントに参加できる。

親子でも楽しめるイベントがある。

市内のサークルが自分たちの活動を紹介できるコーナーを設け、市の出前講座の体験等もできる。

等の特徴づけをし、ごほうびフェスタとの住み分けを図ります。

「ごほうびフェスタ」と「てとてお」の特徴

ごほうびフェスタ	名称	てとてお
我孫子市・イトーヨーカ堂・あびこショッピングプラザ共催	主催	我孫子市(運営は委託)
イトーヨーカドーで開催	場所	公民館及び手賀沼公園で開催
9月及び3月開催	時期	年に1回開催
乳幼児のいる家族	対象	乳幼児～ 小学生 のいる家族
親子で参加	参加形式	託児あり 親子別々でも、一緒でも可
有名人による講演あり 企業の出展あり	特徴	地域のサークル紹介が中心 行政ブースあり
共催のため、ほとんどかからず(講演料程度)	予算	1回50～100万程度?

第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～

- ・民間企業、市内サークル、子育て支援施設（行政）が力を合わせてイベントを行うことで、子育ては親子だけのものではなく、祖父母をはじめとする家族、行政の力、地域の手をうまく借り、自分も学びながら楽しんでほしいというメッセージを伝えます。
- ・子育て・孫育て世帯と地域の結びつきのきっかけを提供し、地域の祭りや自治会活動、子どもの見守り活動等を行いやすくしていきます。
- ・学生スタッフ等の手を借りることで、大学と地域の結びつきを緊密にします。さらに、学生に、家庭を持ち、子育てを行うことについて考えてもらうきっかけとします。

(5)事業全体の強み

- ・ごほうびフェスタ、げんきフェスタや子どもまつりとの住み分けや時期をずらすことで、子育てイベントに参加する人数を底上げすることが期待できます。
- ・託児を実施することで、これまでイベントに参加しにくかった家族の参加が見込まれます。また、市内の子育てサークルや託児サークルの利用を促すことや、子どもの地域行事や地域活動団体への参加にもつなげていきます。

(6)施策実現の課題

- ・運営は民間企業に任せることを予定していますが、予算編成、企業選び及び企業との細かい打合せ等をどの課が行うのが良いのか、検討が必要です。負担が大きいため、「ごほうびフェスタ」担当課以外で行う必要があります。
- ・託児費用の検討が必要。利用者負担額を少なくし、実際の託児費用との差額はイベント費で補填する等の工夫が考えられます。

チラシ(案)

てとてお

Happy 子育てフェア

～親子で、地域で、手と手を結んで、楽しく子育てよ～

<p>ママへのごほうび!</p> <p>◎リラクゼーション講座 (各回先着30名)</p> <p>◎手作りアロマで癒されたくム♪ (各回先着15名)</p>	<p>親子で体験!</p> <p>◎読み聞かせ体験 (市長スタッフによる読み聞かせと、読み聞かせのポイント解説)</p> <p>◎演劇鑑賞</p> <p>◎工作 (竹とんぼ、折り紙 etc)</p>
<p>パパと一緒にできるかな?</p> <p>◎頑張るママに手料理サプライス☆ ※メニューは当日のお楽しみよ</p>	<p>他にもいろいろ体験コーナー、ブースが盛りだくさん! アビスタ6号管理公園や申し込み方法、サークル情報は裏面にあります。</p> <p>お母さん子育て支援委員会 公認運営 (株)はろアサイン</p>

日時：平成27年〇月〇日 〇：〇〇～16：00
場所：アビスタ6号管理公園

主催：お母さん子育て支援委員会 公認運営：(株)はろアサイン

2-3-1-2 市役所職員のアイデア大募集 子ども向けイベント(仮称)「うちの課でなんかできない？」

市の各課では、出前講座を始め、いろいろな情報や知識を発信できる事業を持っています。その各課の特徴を活かした子ども向けイベントを実施します。

- ・各課の特徴を活かした子ども向けイベント
体験と遊びを通して、市役所の仕事も知ってもらえます。
楽しみながら、生活に必要な知恵や力をつけることができます。
- ・地域サークルやボランティア、大学に協力を依頼
託児や親子向けイベント、親向けリフレッシュ講座など、行政の手が届かない部分を手助けしてもらいます。
- ・職員による実行委員会形式
子どもが好き、楽しいことが好きな職員や、市民に広く自分の課の仕事をアピールしたいという職員に参加してもらい、結婚・子育てに対する意識を庁内から高めていきます。

市各課想定イベント

課	内 容
生涯学習課	子ども向けアニメ映画会、アビスタ探検隊、アビコなんでも学び隊
商業観光課	手賀沼のうなぎちさんと記念撮影、せっけん遊び、手賀沼のうなぎちサブレを焼こう！
文化・スポーツ課	ニュースポーツ体験、原始・古代体験
農政課	あびこ産農産物の販売
手賀沼課	谷津ミュージアム紹介(パネル展示等)
消防	防災訓練
市民安全課	シェイクアウト訓練、子どもと考える防災
保育課	保育園見学・体験
全庁共通	人気のある出前講座(市役所メニュー)

2-3-2 市内外の子育て世帯へのアピール

(1) 施策の背景

市では、子育て支援事業を下記のとおり様々な事業を展開しています。

我孫子市の子育て関連事業（一覧）

The image displays a comprehensive list of childcare services in My孫子 City, organized into several key areas:

- 事業体系 (Service System):**
 - 基本理念 (Basic Concept):** あひこの自然やひとの顔に包まれて 子どもが自分らしく育つまち
 - 基本目標 (大分類) (Basic Objectives - Major Categories):**
 - 子育て支援 (Childcare Support):**
 - ① 子育て支援のネットワークづくりと情報発信
 - ② 子育て支援サービスの充実
 - ③ 教育・保育サービスの充実
 - ④ 地域で育む環境づくり
 - ⑤ 子育て世帯への経済的支援
 - ⑥ 持続可能なまちづくりへの検討
 - 子育て世代の生活環境づくり (Childcare Support for Living Environment):**
 - ① 安心して出産・育児のできる環境づくり
 - ② 予防接種の充実
 - 基本方針 (中分類) (Basic Objectives - Sub-categories):**
 - 教育を通して「生きる力」を育む (Education to Nurture 'Strength to Live'):**
 - ① 子どもの健康づくり
 - ② 健康な食生活・食育の推進
 - ③ 小児医療体制の充実
 - 子どもを取り巻く社会環境に対応した学校教育の充実 (Improvement of School Education Responding to Social Environment):**
 - ① 教育環境の整備
 - ② 「ふるさと教員」を愛する子どもの育成
 - ③ 心豊かにする学習と体験の推進
 - 子育てで世帯が住みやすい環境の充実 (Improvement of Living Environment for Families):**
 - ① ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境づくり
 - ② 男女共同参画に関する意識の醸成
 - ③ 子ども虐待防止対策の充実
 - ④ ひとり親家庭への支援
 - ⑤ 発達に支援が必要な子どもへの対応
 - ⑥ こども発達センターの機能強化
 - ⑦ 子ども・若者の自立支援

次期「我孫子市子ども総合計画」より

我孫子市独自の子育て関連事業

- ・ 妊婦、2歳8か月児、5歳児、親っこ歯科健康診査
- ・ 小児インフルエンザ予防接種助成
- ・ 若い世代の住宅取得等への支援
- ・ 子ども医療費助成・未熟児養育医療・育成医療
- ・ 市立幼稚園就園奨励費補助金・園児補助金 etc

我孫子市ではこのように数多くの子育て事業があり、他市に先がけたものもあります。しかしPRしているにも関わらず、子育て支援が充実しているイメージが薄いと考えます。

そこで、なぜこれほど充実し、先進なサービスがありながら、あまり効果があがらないのかということに着目し、注目される事業によって我孫子市は子育て支援に力を入れていることを強くアピールできる効果的の事業を検討することにしました。

第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～

さらに経済的に余裕がないことが少子化の原因の一つ（p9 参照）になっていますが、市で大掛かりな経済的援助ができない以上、注目される施策で我孫子市のアピールを行い、それ以外の市の充実した子育て制度も周知し、複合的な施策を用いることでも相乗効果を狙います。

(2) 施策の目的・目標

- ・ 我孫子市が子育てに力を入れていること
- ・ 革新的な事業をしていること
- ・ 我孫子市は千葉県内の人口10万人を超える自治体の中で、犯罪発生件数が最も少ない安全なまちであること
平成25年12月末 刑法犯認知件数 1,255件（確定値）千葉県警察犯罪統計より
- ・ 市の一部の部署ではなくて市全体で子育てを応援していること
PRだけではなく、継続的にアピールをしていく。
- ・ 我孫子市を知ってもらおうきっかけ作り

(3) 施策のターゲット

- ・ 市内、市外問わず、子育て世代
- ・ 出産を検討している家族

(4) 施策の内容・強み

施策の提案事業は当初、次の2事業を検討しました。

- ・ 20代割
20代の出産、育児を徹底的に応援
出産費用の援助、保育園・幼稚園・学童保育の減免を検討
早期出産の推奨や機会不平等につながってしまう可能性がある。
30歳以上の夫婦の子供に対する不平等感がある。
- ・ 第2子無料事業
保育園・幼稚園・学童保育へ通う第2子の保育料を条件付で無料にする。
実現すれば千葉県で初めて、関東圏でも2番目の実施自治体となる。
PR効果は高いと見込まれる。
事業費が莫大になってしまう。
条件付の無料なので機会不平等になる？

課題の整理が困難であり提案を断念し、次の事業を提案することとしました。

2-3-2-1 幼保第三子無料事業

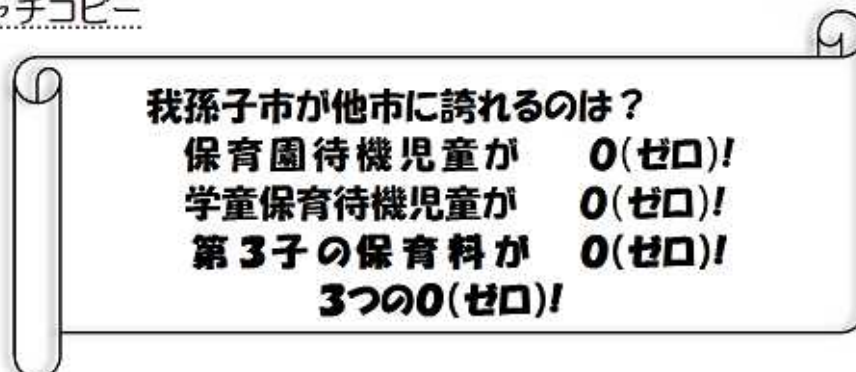
キャッチフレーズは「第三子0円！」

- ・市内保育園・幼稚園に通園する第三子以降の保育料を無料とします。
- ・一子、二子が同時に在園していなくても対象とし、所得制限も設けません。
- ・子どもを多く持ちたい世帯へ経済的な支援をすることで出生率の向上を目指します。

この事業は機会不平等ではなく、シンプルでわかりやすく、さらにアピール効果があると考えられます。

PR例

キャチコピー



広告イメージ

我孫子市には3つの0(ゼロ)があります。

- ① 保育園待機児童が 0(ゼロ)
- ② 学童保育待機児童が 0(ゼロ)
- ③ 第3子の保育料が 0(ゼロ)

我孫子は0(ゼロ)

「我孫子っていいなあ！」(市内世帯)



「我孫子に住んでもいいかも！」(市外世帯)

・事業規模

最低6,000万円~

保育園 第3子目以降 約200人 約4,200万円

幼稚園 第3子目以降 約80人 約1,800万円

事業規模が大きくなりますが、近隣の子育て世帯へのアピール効果との費用対効果も含め、検討の余地はあると思われます。

(6)施策実現の課題

予算が他の子育て支援事業と比較して大きくなることが予想されます。国の動向をにらみながら、市の独自助成の検討も必要です。

(7)他自治体の状況(平成27年4月からの実施例 ネット、新聞等に掲載)

- ・京都府と府内の各市町村は、平均的な年収以下の世帯の3人目以降の子どもについて、幼稚園、保育所の保育料を無料にすることを決めた。富山県も同様の制度を4月に始める予定で都道府県ではともに全国初の取り組み
- ・東京都港区は、認可保育所や幼稚園の保育料を来年度以降、第2子から無料にすることを発表、東京23区では初めて

2-3-2-2 子育て応援宅配便事業

(1)施策の背景

市の子育て事業は、広報、HPや子育て情報「わく²すく²」などがありますが、全ての情報が伝えきれてはいません。そこで市内の各々の子育て世帯(数千世帯)へ直接アピールできないかということを検討をしました。

各世帯に直接市の子育て支援パンフレット、試供品、直売所商品券や冊子資料を送付し、市の子育て支援施策を広く周知します。

(2)施策のターゲット

配布対象

世代ごとに子育てについて必要な情報は異なります。

- ・出産後の世帯

第2章 少子化対策の提案 ~3つの柱から~



- ・ 保育園、幼稚園入園前の世帯
- ・ 小学校入園前の世帯

0才、3才、6才の子供のいる世帯に配布する。

0才は出産、3才は幼稚園入園、6才は小学校入園の時期をイメージ(7, 5, 3才でも可)。

配布時期

- ・ お米なら新米が喜ばれる。
- ・ 幼稚園の募集の時期
- ・ 小学校入園に向けての準備中
秋に配ることとする 基準日は10月1日
白米を直接自宅に送付する。
- ・ 無料券は5キロのお米と引き換えを想定
- ・ 白米の量は、3kg、5kg、10kgが想定され、年齢によって変えることも検討

市外へのアピール

- ・ ママ友のネットワークで広がるのを期待(口コミ情報)
- ・ 住宅情報誌等で取り上げられる可能性
- ・ 協賛企業とタイアップによる配布品と企業自身のPRにも期待
- ・ マスコミにもPR

(3) 施策の内容

職員提案で採用された「転入者特典でお米配布」という事業があります。市の食糧の供給、豊かな緑として農業が注目されていますが、米価の値段が安くなり、農家の経営の困難さが増しています。そこで子育て支援と農業振興、そして我孫子産米による食育を取り入れた事業としてアピールをします。

- ・ 特産品がない我孫子で一番作られているお米のPRを兼ねる。
- ・ 農家支援に繋がる。
- ・ 米価が下がっていることから市内水稻農家の支援も兼ねる。
- ・ 子育て支援の試供品の提供により協力企業からのPRも促せる。

第2章 少子化対策の提案 ～3つの柱から～

・事業規模

米購入価格		
	単価	1000人分
5キロ	2,000	2,000,000
10キロ	4,000	4,000,000
◎ 0歳、2歳、5歳全て5キロとした場合		600万円
◎ 0歳、2歳は5キロ、5歳は10キロとした場合		800万円
◎ 0歳は5キロ、2歳、5歳は10キロとした場合		1000万円
商品券購入価格		
1000円分×3000世帯		300万円
箱詰め、発送業務		
800円×3000世帯		240万円
段ボール代		
90円×3000世帯		27万円

※ただし、段ボール代などは広告の記載などにより経費節減の可能性がある。

(4) 二つの施策全体の強み

「三人目無料」「子供のいる家庭にお米を配る」などわかりやすい、アピールしやすい事業

(5) 施策実現の課題

- ・ともに経費が掛かる事。事業規模、対象者によって経費が大きく変わる為、費用対効果の検討が必要
- ・担当課が子ども部以外に関わるため、他課の負担増になることから庁内調整が必要になることが考えられます。
- ・宅配についての応諾やより米効果的な配布方法の検討が必要
- ・いかに施策を利用したPRを行うか、PR方法が重要

第3章 少子化対策の提案実現に向けて

～切れ目のない支援を～

プロジェクトでは、3本の柱に基づき具体的な事業提案を行いました。

しかし、少子化は、個々の事業を実施していくだけでは解決できません。既に実施している市の施策、さらに地域との連携した「切れ目のない連続した」支援が求められています。

我孫子らしい“切れ目のない”継続的な事業が実施されていることは、市民にとって「我孫子市に住んでいること」が、ライフプランにおいて「居心地の良さ」を感じ、我孫子市に住み続けていく重要な要因となります。

転入を考えている方にとっては、市で実施されている様々な事業が定住する場所を選択する際に、大きなメリットとして感じられれば、「我孫子市に住む」という定住化の動機付けとなります。

また、女性の転出の抑制と転入促進は、少子化対策を考えるうえで重要な課題の1つですが、安全なまちとして結婚や子育て環境を整え、さらに就労を継続し、安心して住み続けられる実情にあった支援策を検討する必要もあります。

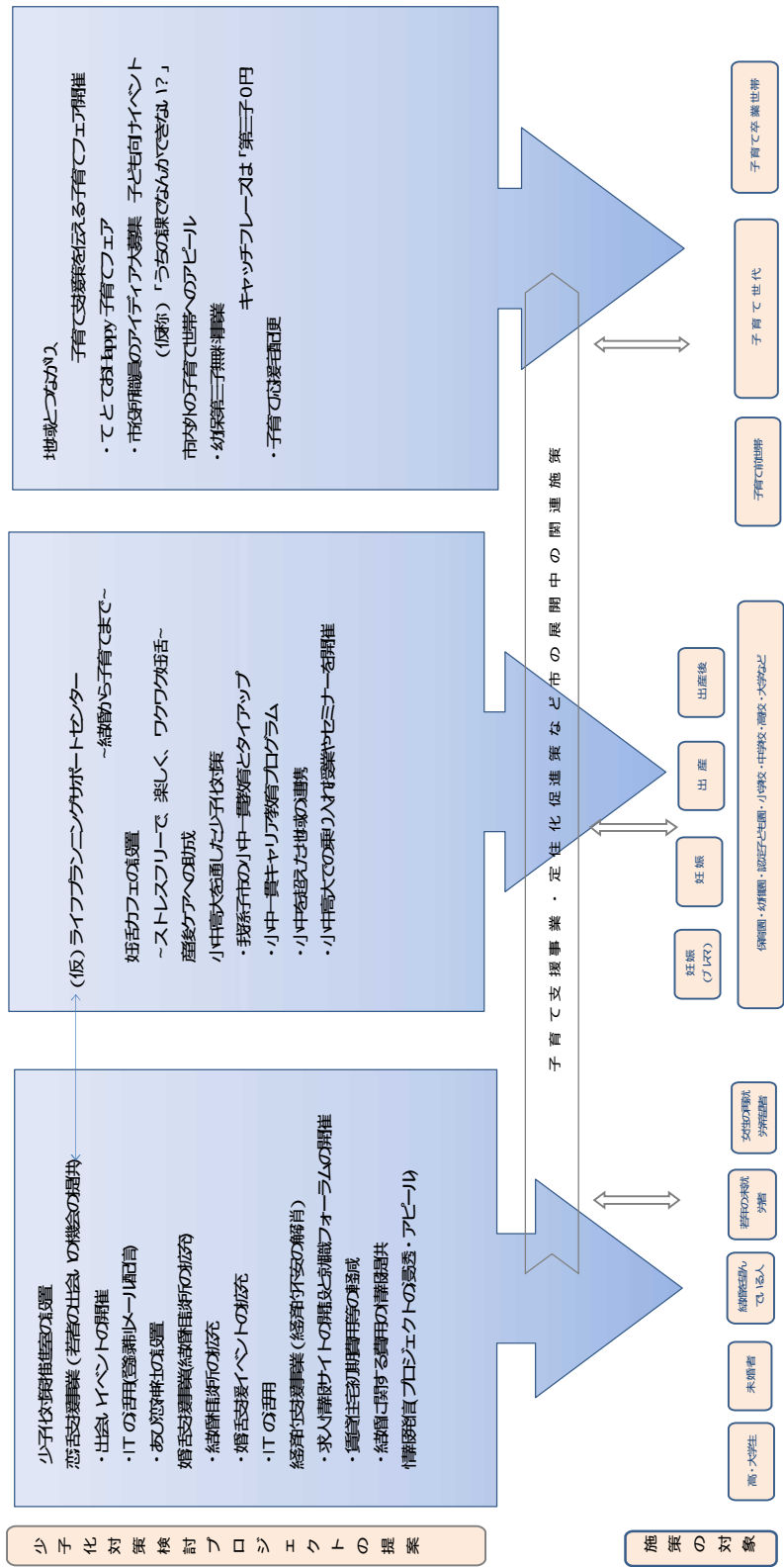
今後、結婚・妊娠・出産・育児の一貫した総合的な少子化対策を「切れ目ない支援」として、市全体で考え、引き続き、提案事業の実現に取り組んでいただきたいと思います

少子化対策の柱	具体策	提案の実現			
それぞれの世代が、あびこで結婚・妊娠・出産・子育てを 具体的なイメージし、コミュニケーションできる仕組みづくり	結婚したい人が、あびこで「前向きに」結婚できるための仕組みづくり	少子化対策室等の設置 恋活支援事業 婚活支援事業 経済的支援事業（経済的不安の解消） 情報発信	の提案について、平成27年度に「婚活事業の拡大・充実」として実施。他について引き続き実施に向けて検討		
	子どもを産みたい人が、あびこで「安心して」産める仕組みづくり			妊活カフェの設置 産後ケアへの助成 小中高大を通した少子化対策	の提案について、平成27年度に「ママヘルプサービス等の充実」として実施。他について引き続き実施に向けて検討
	子育てしている人が、あびこで豊かな暮らしとともに子育てを「楽しめる」仕組みづくり			地域とつながり、子育て支援策を伝える子育てフェア開催 市内外の子育て世帯へのアピール	

我孫子市の少子化対策

出会い・結婚・妊娠・出産・子育て切れ目のない支援の実現

市と地域(自治会、諸団体、企業)との連携



結婚したい人が、あひだで「前向き」に結婚できるための仕掛けづくり | 子どもを産みたい人が、あひだで「安心して」産める仕掛けづくり | 子育てしている人が、あひだで働きながら子ども子育てを「楽しめる」仕掛けづくり

それぞれの世代が、あひだで結婚・妊娠・出産・子育てを具体的にイメージし、シミュレーションできる仕掛けづくり

第4章 資料

4-1 会議開催経緯

【全体会議等】

開催日	会議名等	議題等
平成26年 5月13日(火)	第1回 全体会議 (議事堂第1委員会室)	1.プロジェクトについて 2.現状と施策について 3.今後のスケジュールについて
平成26年 5月26日(月)	第2回 全体会議 (分館会議室)	1.前回の意見・提案の再検討と整理 2.施策の柱立てについて
平成26年 6月6日(金)	リーダー・サブリーダー会議 (企画課打合室)	施策の柱立ての検討と施策の選択方法について
平成26年 6月17日(火)	リーダー・サブリーダー会議 (企画課打合室)	各班の政策の選択について
平成26年 6月23日(月)	第3回 全体会議 (分館会議室個室)	政策の柱立てについて
平成26年 7月28日(月)	第4回 全体会議 (議会A会議室)	各柱立てに対する政策提案について
平成26年 8月26日(火)	事務局ヒアリング (社会福祉協議会協議会)	結婚相談事業について
平成26年 9月2日(火)	リーダー・サブリーダー会議 会議(企画課打合室)	けやきプラザ 11階の活用方法について
平成26年 10月3日(金)	第5回 全体会議 (分館会議室)	1.あびこの魅力発信室長との意見交換 2.中間報告とりまとめと確認事項について
平成26年 10月14日(火)	リーダー・サブリーダーヒアリング (社会福祉協議会協議会)	結婚相談事業の課題について
平成26年 10月16日(木)	けやきプラザ 11階施設 利用計画選考委員会 (分館小会議室)	ヒアリング審査

第4章 資料

平成26年 11月21日(金)	中間報告会 (名戸ヶ谷あびこ病院大会議室)	中間報告について
平成27年 2月2日(月)	リーダー・サブリーダー協議 (総務課打合)	最終報告書について
平成27年 2月9日(月)	最終報告会 (市長応接室)	最終報告

【ワーキンググループ別会議】

第1WG

平成26年7月4日(金)	婚活支援事業・就労支援・再就職支援について
平成26年7月23日(水)	婚活支援事業・恋活支援事業・経済的支援事業について
平成26年10月24日(金)	婚活支援事業、恋活支援事業、経済的支援事業の中間報告に向けて事業内容の再検討
平成26年11月6日(木)	婚活支援事業、恋活支援事業、経済的支援事業の中間報告に向けて事業内容の再検討
平成26年11月10日(月)	経済支援事業について 事業者ヒアリング (その1)
平成26年11月12日(水)	経済支援事業について 事業者ヒアリング (その2)

第2WG

平成26年6月30日(月)	1.妊活についての意見出し 2.教育現場での取り組み
平成26年7月9日(水)	妊活カフェについて(コンセプト、他機関との連携、主体)
平成26年7月14日(月)	妊活カフェについて(提案の背景、具体的内容)
平成26年7月22日(火)	第4回全体会議への提案について
平成26年7月31日(木)	小中高大生への教育(小中学校現場の教育の説明、アイデア出し)
平成26年8月14日(木)	提案の絞り込み
平成26年8月22日(金)	市内事業者へのヒアリング
平成26年8月28日(木)	1.小中学生への教育 2.産後ケア

第4章 資料



平成26年9月8日(月)	1.9/2 リーダー会議報告(けやき11階提案) 2.産後ケア、相談窓口の他市区の事例の紹介
平成26年10月7日(火)	産後ケアへの助成の課題検討

第3WG

今後のプロジェクト会議のあり方として、試験的に Group ware 上の電子会議室による協議を中心とした。

随時電子会議	Groupware「電子会議室」、メールによる協議
平成26年6月24日(火)	保育課等へのヒアリング
随時ヒアリング	市民課、健康づくり支援課、保育課等資料依頼・提供

第4章 資料

4-2 設置要綱

我孫子市少子化対策検討プロジェクトチーム設置要綱

平成26年5月8日告示

我孫子市告示130号

(設置)

第1条 少子化が進展する中、若い世代が結婚し、市内で子どもを産み育ててもらい、定住してもらえるような魅力あるまちづくりを目指すための取り組みについて総合的に検討する、我孫子市少子化対策検討プロジェクトチーム（以下「プロジェクトチーム」という。）を設置する。

(組織)

第2条 プロジェクトチームは、メンバー15人以内で組織し、次に掲げる者のうちから市長が任命し、又は委嘱する。

(1) 次の表に掲げる課に属する職員

秘書広報課 企画課 市民活動支援課 健康づくり支援課 子ども支援課 保育課 生涯学習課
--

(2) 社会福祉法人我孫子市社会福祉協議会の職員

(3) 公募による職員

(任期)

第3条 メンバーの任期は、任命又は委嘱の日からプロジェクト調査検討報告書策定までの期間とする。

(リーダー及びサブリーダー)

第4条 プロジェクトチームにリーダー及びサブリーダーを置き、それぞれメンバーの互選により定める。

2 リーダーは、会務を取りまとめ、プロジェクトチームを代表する。

3 サブリーダーは、リーダーを補佐し、リーダーに事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 プロジェクトチームの会議は、リーダーが招集し、リーダーがその議長となる。

2 プロジェクトチームは、必要があると認めるときは、会議にメンバー以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 プロジェクトチームの庶務は、子ども部子ども支援課及び企画財政部企画課において共同で処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、プロジェクトチームの運営に関し必要な事項は、リーダーがプロジェクトチームに諮って定める。

附則

この訓令は、公示の日から施行する。

第4章 資料

4-3 プロジェクトチーム名簿

所 属 ・ 職		氏 名	備 考	
総務部	秘書広報課・主事	尾高 由季子		
企画財政部	企画課・主任	安武 真弓	サントリーダー	
市民部	市民活動支援課・主事	森山 拓朗		
健康福祉部	健康づくり支援課・保健師	一場 亮子		
子ども部	子ども支援課・主事	前田 景介		
	保育課・主事	矢野 布美子		
教育委員会 生涯学習部	生涯学習課・主事	湯下 友美		
公 募	総務部	総務課・主査長	寺田 秀樹	リーダー
	企画財政部	課税課・主事	大内 郡	
	健康福祉部	国保年金課・主事	辻 恵	
	環境経済部	農政課・主任	藤田 雅史	サントリーダー
	建設部	交通課・主事	佐々木 博之	
	教育委員会	指導課・指導主事	山田 恭生	
我孫子市社会福祉協議会・主任		牧 則子		

ワーキンググループ(班)

第1WG(班)

寺田 秀樹・牧 則子・矢野 布美子・辻 恵・前田 景介

第2WG(班)

安武 真弓・尾高 由季子・森山 拓朗・山田 恭生

第3WG(班)

藤田 雅史・一場 亮子・湯下 友美・大内 郡・佐々木 博之

が各WGリーダー

少子化対策検討プロジェクト 報告書

平成27年2月 発行

我孫子市少子化対策検討プロジェクト事務局

我孫子市我孫子 1858 我孫子市役所 内

子ども支援課・企画課
